室内楽で、つながる。

APA 50th
エイパ
Amateur Music
Players'
Association Japan

APA 50周年記念誌

室内楽で、つながる。

APA 50th

エイパ
Amateur Music
Players'
Association Japan

APA 50th Anniversary Publication

APA 創立時の思い 4

APA 創立前夜あれこれ 6

APA 例会・定例発表会 8

50 周年記念関連 15

写真で見る年次大会 16

写真で見る合宿 音楽祭 17

APA 会報・NPO 法人・クラブ室 20

APA 歴代理事長の横顔 22

あの日、あの時 24

データで見る APA の 50 年 28

APA 50 年の歴史 30

APA が招聘したプロの演奏家 33

未来の仲間たちへ 34

理事長挨拶 35

Haus des Heiligenstädter Testaments（ウィーン・ハイリゲンシュタット〜ベートーヴェンハウス）

APA創立時の思い

ただ合奏を楽しみたいのではない、次女を亡くされた壮絶な思いが、実はAPA創立への引き金になりました。発足人の一人であり、かつ煩雑な事務作業の司令塔をこの50年間、一手に引き受け、活動を支えた永田雅夫副理事長が、創立時の様子を記します。

49年6月16日　日曜日　サンケイ新

千華ちゃん、聞いてるかい

アマチュア演奏家たちが協会を設立　披露パーティー

「ひとりで楽器を楽しんでいるアマチュアプレーヤーは、仲間を見つけて合奏をやりましょう」―アマチュア演奏家たちの連絡機関「日本アマチュア演奏家協会」（略称APA）がこのほど設立され、その創立披露パーティーが、千代田区平河町の日本都市センター別館で行われた＝写真。

発起人はフリーライターの井上明さん(29)で、設立のキッカケになったのは昨年八月、井上さんの次女、千華ちゃん（当時八歳）が再生不良性貧血で亡くなったことだった。バイオリンをひく井上さんは、千華ちゃんのバイオリン、長女、龍子（りゅうこ）さん(一七)のピアノと三人で家庭合奏を楽しんできたが、千華ちゃんの急死で合奏ができなくなった。「近くにいる同好の人と合奏ができたらなあ」と思い、千華ちゃんの記念のためにもアマチュアの組織づくりを決意した。

楽器を演奏する人は多くなったが、アマチュアには合奏のための場所や施設がなく、音楽活動に対する評価も低い。また、アマチュア自身も価値を自覚していないなどの問題がある。このアマチュア同士を結びつけ、アマチュアのコミュニケーションセンターにしようというのが、この協会の目的。仲間さがし、会報の発行、講習会の企画などを考えているほか、不用品交換やレコードの割引などアマチュア演奏家の便宜を図っていくことにしている。すでに会員は現在三百二十人。毎日五、六人のペースで増え続けているという。

この日の披露パーティーには二百人近くも出席し、各自楽器をもちこんでのにぎやかな集まりになった。設立のあいさつのあとは各グループの腕自漫。平均年齢七十歳という「二百八十歳カルテット」のフルート四重奏や、四人の主婦による〝主婦カルテット〟の弦楽四重奏が演奏された。とび入り演奏も続々。

井上さんは「音楽文化は広いアマチュアの底辺によって支えられるもの。アマチュア同士が交流できる〝ヨコ社会〟を作り、将来は国際交流もしたい」と〝ユメ〟を語っている。

1974年6月の創立パーティを伝えたサンケイ新聞（1974年6月16日）。アマチュア同士のつながりを求めたスタートを伝えた

〝音楽上の救い〟に活路を

発起人・永田雅夫

1973年11月、同じ新交響楽団のメンバーでもあった輸入楽譜・音楽書の専門店 アカデミア・ミュージックの故平岩寧社長の紹介で、元産経新聞記者の故井上明氏の訪問を職場で受けた。アマチュア演奏家のネットワーク作りの相談だった。「井上さんはご自身で合奏を楽しみたいのか、組織作りをしたいのか、両立しないと思うので初めに伺っておきたい」と問うと、「組織作りをしたい」とのこと、「では協力いたします」との経緯で二人三脚が始まった。

後年の井上明氏の記述にはその頃の思いが記されている。『1973年8月3日、次女千華が死亡した日から私の精神は尋常ではなかった。…その後「千華が欠けた家庭合奏」を何らかの方法で復活させる〝音楽上の救い〟で私が立ち直るきっかけをつかむ道があるのではないかと思った。それが日本アマチュア演奏家協会（エイパ）を発想した原点であった』

エイパの誕生の裏には、75年8月から14年続いた、いわゆるクロマイ訴訟に繋がる次女千華ちゃんの死を発端とする井上ご夫妻の苦闘がある。

「クロマイ裁判14年4か月：次女・千華（8歳）の薬害死をめぐる闘いの日々：ドキュメント」の共同著者である奥様、井上和枝さんの報告、『人にはそれぞれ自分を支える違った方法がある。宗教に助けられる人がいる。今この（薬害の）追跡調査が生き甲斐になっていると夫は言うが、彼自身の破滅を支えたのは、音楽だった。千華の死後1ヵ月後から、夫はよろよろの心と体で、娘の生命を記念する事業だといって「日本アマチュア演奏家協会」を創りはじめた。…最初の相談相手は、千華が入院中に音楽慰問をしてくれた旧友、中村康雄、宇野弘の両氏だったが、アマチュア音楽界の長老名士や人材を一人ずつ訪問して、組織作りを始めた。孤立して合奏相手を探す方法のないアマチュア演奏家が、仲間を得やすいようにする、という趣旨の連絡機関だ。この狙いは最初は、はたしてものになるかと思う人も多かったようだが、新響の事務局長の永田雅夫氏の抜群の能力と、数人の中核人物、またいずれ劣らぬ音楽キチの活躍に支えられ、現在（1978年頃）全国で800人の立派な会に成長した。…私も最初の頃、電話の応対、勧誘の手紙書き、案内状の発送と、何とか成功させて、夫を元気づけることができれば、と自分の仕事も後まわしにして、ほとんど1日中手伝っていたものだが、もう手を離れた。この会員と電話をしたり、会ったりしている時は、私も夫の荒れを心配しなくてもすむのである。おかげで夫の行動も最近では表面落ち着いてきた』（註：エイパ事務局は78年9月、エイパ正式発足と同時に、井上さんのご自宅に会員登録カードと預金通帳を残して、前年から開設されていた新宿区百人町・製餡会館のエイパクラブ室へ移転した）

エイパ設立の前後、酒好きの井上さんと荻窪駅近くの赤提灯で遅くまで飲むこともしばしば。私の頭はいつもエイパのことでいっぱいだったので、裁判のことは聞き流していたが、いま改めて裁判記録を読ませていただくと、あの時はそういう気持ちだったのだということが胸に響く。当時からの深酒はやはり満たされない思いからの逃避だったのだろうが、2006年暮れに脳梗塞で倒れ、翌年に74歳で亡くなられた（合掌）。

「室内楽を遊ぶ会」を開いた

井上明（いのうえ あきら）

ひと

ピアノやバイオリンが弾けても一人ではつまらない。かといって合奏の相手が見つからない。そんな孤独なクラシック・アマ奏者たちが、横の連絡をとれたら。「マージャン仲間が電話一本で残りの一人を呼ぶように、ま、ゲタばきで合奏に集まれる組織がほしかったんです」。

去年八月、バイオリンを弾く小学校三年の次女が病死した。ひどいショックで、仕事もなにも手につかなかった。「長女がピアノ、私がビオラ、チエロ。夢だったトリオも組めなくなって……」。娘の記念にも、と一年近く奔走、ことし六月『全国アマチュア演奏家協会』（APA）を発足させた。その代表世話人。この十八日には東京都内で仲間十組〝出演〟の、入場無料の「室内楽を遊ぶ会」を開いた。「ええ、ハプニングの連続でしたが、盛況でした」。バッハ専門に弾く。

略歴　東京生まれ。京大経済学部卒。29年産経新聞入り、38年富士急行広報課長、44年金融財政事情研究会総務部長。現在日本情報開発協会主任研究員。42歳。

いま会員は全国に五百九十人。首都圏が八割、関西に一割。あとは北海道から鹿児島まで、一県に一人、二人。「みんなさびしいのですね。身近な情報をほしがっている。それと、職業、地位、思想などいっさい関係ない横のつながりを求めています。この会は、音楽を通じてのヨコ社会の実験、です」。

会員名簿のほか、「音楽名鑑にも出ていない」全国のアマ・オーケストラや合奏団の名簿もつくって、会員に送っている。アイデアマン、世話好き。「地方の会員には、来年三月の飛び石連休に、東京に集まってもらおうと思いますよ」。

本職は経済調査関係。新聞社経済部記者十年の経験を生かして、いま東京・霞が関ビルの一室で、「金詰まりに絶望感を持つ」中小企業の経営者十四、五人と研究会を開いたりしている。話好きである。実父は阪大理学部教授だった故楠田龍太郎氏、養父は松竹蒲田撮影所長、プロ球団松竹ロビンス社長だった故井上重正氏。（民）

「みんな、職業、地位、思想などいっさい関係ない横のつながりを求めています。この会は音楽を通じてのヨコ社会の実験、です」

APA 創立を最初に思い立たれた発起人の一人、井上明氏を朝日新聞が「ひと」欄で紹介した（1974 年 12 月 21 日）

（註：クロマイ裁判について QR コード参照）

私自身のエイパに対する構想は、アマチュアの演奏人口がどのくらいの数字になるか推定、設立初期の名簿には、全国アマオケ一覧、大学オケ一覧を掲載したが、アマオケ１５４×30人／団、大学オケ１０２×30人／団＝７５００＋ピアノで計１万人の10倍で10万人をカバーできる６桁の会員番号を提案。井上氏はじめ毎月の準備会の面々の反対はなく、永田ペースで組織構想は進んでしまったが、もっと井上氏を悩ませて当初の約束通り、運営に引きずり込んでいれば、もっと長生きされたに違いないと悔やまれる。ちなみに、最新の全国アマオケ団体数は６２３を数える。

設立後、最初に考えた活動は、合奏場所探し。休業日にフロア提供可能なレストランや楽器店を探し出したが、許可を得てから日程を発表して参加者を広く募ることが難しく、それよりも、毎月第何・何曜日と決めておいて集まる定例会が手っ取り早く、各地で一斉に立ち上がった。

１９７４年８月に荻窪名曲喫茶ミニヨンビルで第1回、第2回以降は御茶ノ水・井上眼科病院隣りの故井上正澄氏邸が開放され、第3日曜日開催の中央線例会、10月にルソール合奏団主宰の故左治木恵美子氏宅で第1日曜日の城西例会、翌75年2月、府中の楽器店で泊川一之氏が第４日曜日に京王線例会（後に八王子に移動して多摩地区例会）、3月に星名孝行氏らが練馬区公民館で第2日曜日に西武線沿線例会（後に田無市公民館）等々、たくさんの地域例会がスタートした。

これら地域例会とは別に、横断的に会の巾を拡げる狙いで、故柳原直彦氏がＣＤ例会（後のＣＤグレード例会）を77年にスタート。他にフルートの会、リコーダーの会、合奏相手探しの会、チェロレッスンの会などが企画され、日程は会報で告知されたが、地域例会と併せて全部の例会日程が会報で告知されるのは１９７８年のエイパ正式発足以降。

全国組織としての関西支部の誕生は、エイパ創設者井上明氏の大学の先輩、白井次郎氏の働きが大きい。氏はただちに大阪の愛好家のキーマンとして山田楊平氏に呼びかけ、74年12月に50名で関西支部が発足した。

(9)　2版　1978年（昭和53年）9月16日　土曜日　朝日

「APA」四年かけ正式発足

身近な音楽活動めざし

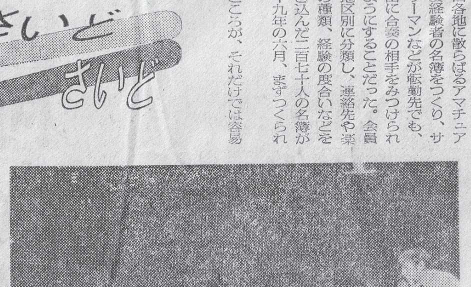
演奏家が自由に行き来

ゲタばき浴衣がけで、近所の人たちと合奏を……という身近な音楽活動をめざして、四年前から活動を進めていた「APA」（日本アマチュア演奏家協会設立準備会）が十七日、東京の九段会館で、正式発足のための全国大会を開く。会員数約千人。あらゆる職場を横に結んだ、珍しい自主活動グループだ。

この協会のはじめの目的は、全国各地に散らばるアマチュア演奏経験者の名簿をつくり、サラリーマンなどが転勤先でも、自由に合奏の相手をみつけられるようにすることだった。会員を地区別に分類し、連絡先や楽器の種類、経験の度合いなどを書き込んだ二百七十人の名簿が四十九年の六月、まずつくられた。

ところが、それだけでは容易に人を集めることが出来ないことが間もなく分かった。見知らぬ人に誘いの電話をかけると、大抵、相手が遠慮してひっ込んでしまう。この壁を破る方法として、各地にリーダーをきめ、積極的に地区の人々に働きかけ、各家庭もち回りの演奏会を開くことが計画された。時には一流演奏家が技術の相談にのったり、スロバキア室内合奏団や、ターリッヒ、ウルブリッヒ弦楽四重奏団を招いて、歓迎会や公開レッスンなども開かれた。

趣味の音楽でも、個人よりグループでやる方が効果があがるということが、会員の中で次第に分かってきた。「他人に対する責任感から練習せざるを得なくなる」「同業以外の人へ付き合いの範囲が広がった」「プロ級の人から批評されると勉強になる」という会員の声がそれを物語っている。現在、メンバーには元プロの演奏家や在日外人も名を連ねており、出張先でグループをみつけ合奏を楽しむ人や、外国まで出かけて共演をしてきたベテランもいる。



スロバキア室内合奏団のボフダン・バルハルを指揮者に迎えて演奏する「APA」のメンバーたち

面白いのは、会員の中に楽器製作グループまで生まれていることだ。バイオリンやブロック・フレーテなどを自作し、その技術を交換し合っている。また会員の二世による合奏団や、コレギウム・ムジクムのような協会を母体にしたアマの演奏団体もできている。

これまで四年間、設立準備会の形で通してきたので、会長、副会長はまだきまっていない。その人選をどうするか、会員をもっとふやすべきかどうかが、今後に残された問題だ。「日本のアマチュア・オーケストラの歴史は、分裂の繰り返しのようなところがありました。会員がふえても、組織が分裂しては何の意味もありません。私たちは派閥を作らぬことを第一に考えています」と協会の代表世話人の井上明さんはいう。

心を砕く問題は、まだある。その一つは協会の財政であり、もう一つは催し会場が少ないことだ。「私たちは、会員に対する責任はあるにしても、何にもしばられない自由があります。しかし、この四年間、経済的スポンサーをもたない組織の運営のむつかしさを痛切に感じました。土曜、日曜には、都心で空になるビルがいっぱいあります。演奏家のひとりよがりかも知れませんが、そんな建物の一部でも、合奏に使えるところがあれば、とよく思いますね」とも話した。

1974 年にスタートした APA の正式発足を伝える朝日新聞（1978 年 9 月 16 日）。この時点で会員は約 1,000 名を数えていた

APA創立前夜あれこれ

住まいや職場の近くで合奏仲間が欲しい。「いつでも、どこでも、だれとでも、そしていつまでも」仲間たちと音楽を奏でる楽しみを味わいたい。そんな組織を作ろうと、構想し、動き出したのは1973年の夏でした。1973年といえば、第四次中東戦争勃発に伴う第一次オイルショックで物価が急上昇。電話ファクシミリサービスがスタートした年でもあります。

ここで紹介するAPA会報0号では、1974年の創立以前の前史についても日誌スタイルで記録され、その頃、30歳前後だった若者たちの知恵と情熱を傾けた意見交換が何度もなされていたことがわかります。そして、74年5月17日に、すでに参加を表明した235名の暫定

会報0号■発行所・日本アマチュア演奏家協会（APA）設立準備東京連絡会：AMATEUR・PLAYERS' ASSOCIATION, JAPAN・東京都杉並区荻窪3－13－15東荻窪マンション413号（〒167）☎03－391－9186■発行人・井上明■編集室・入江潔・松波龍一

APA No.0

1974.6.5

住まいや職場の近くで合奏仲間がほしいと思っていたあなた……名簿の中に仲間を見付けることができましたか？　いろんな合奏を楽しみたいと望んでいたあなた……何人の会員に電話してみましたか？　申し合わせたように空いていたお互いの余暇時間……どんな合奏をしましたか？　APAがお役に立ったなら幸いです。

はじめに

暫定名簿の締切り後，63人の方々が入会され，6月5日現在で個人会員は297人となりました。15日の総会までに何人となるか，発起人一同，一喜一憂をしています。レセプションの楽しい合奏のひとときをご期待ください。

さて，APAは，音楽好きという一点で結集したさまざまな人たちの団体です。年令，性別，信条，社会的地位等とは無関係に成立したいわば"ヨコ社会"の新しい試みです。それだけに，会員の皆さんの趣味嗜好もバラエティに富んでいます。単に合奏を楽しむ方だけでなく，作曲・編曲をなさる方，楽理・音楽文化史の研究，楽器の鑑賞・製作をされる方もおられます。ですから，会員相互の交流は楽しく内容豊かなものになるはずです。

APA会員にとって，合奏が活動の大きな部分を占めることはもちろんです。他人の酷評にさらされ，技量を磨いていく厳しさも必要でしょう。しかし，へたの横好きで楽しむだけという人，好きな作品をよりよく理解し鑑賞するために合奏するのだという人もいます。いずれも，音楽を真に愛好することにおいて違いはありません。会員同士がその多彩な音楽の交流を行なう中で，ご自身の新しい世界を広げていけるなら，APAの存在理由もあったといえましょうか。（I）

いわゆるふつうの主婦として
余暇にピアノを楽しみ続け
子供たちとの合奏を夢見
しかし理想は実現せず
素人の孤独を感じて
すごしております
山本茂子・主婦
（PH小崎市）

⊙APA日誌

（文中，会員は敬称略）

■前史（1973年）

7.28 アマチュア同士お互いに便宜を提供しあう巾広い組織ができないかを井上－宇野が討論
8. 3 井上の次女・千華(8才8ヵ月)が再生不良性貧血で急死　亡き子の記念に組織づくりを決意
9. 4 井上宅弔問の中馬夫妻と意見交換　中馬がアメリカのアマ組織ACMPの資料を提供
10.29 中村－井上－宇野－中馬が新宿で会合
11. 1 平岩の紹介で太田－井上が意見交換
11.21 井上－宇野－太田－中村が平河町で会合，会の名称，業務内容，会則綱の骨子を固める
12.15 太田－井上が岸辺を訪問，意見を聞く
12～　芥川，岩船，吉田の諸先生から別個にご意見をうかがい，基本線でご賛同を得る

■APA設立準備東京連絡会（1974年）

1～　太田がパンフレット原案を作成，アマ・オケ関係者への説得と人脈の組織化に乗り出す
1.16 第1回準備会を信濃町で開催　井上(伸)－岡田－竹内－半田－松本が参加し，具体策を討論
2.20 第2回準備会，論議－戸田と大学オケ連辻村が加わり，会員拡大の手順，関係筋へのPR方法，楽壇有名人への賛同依頼を決定
3. 5 井上－太田が文化庁と都庁を訪ね意向打診
3.17 APA広告掲載の「音友」4月号発売
3.20 第3回準備会を東医健保会館で開催　杉山－白石－田丸と事務局の井上夫人－小宮が参加　太田提案の事業計画と暫定名簿内容を討議
4. 3 第1回世話人会をお茶の水で開催
4.12 パンフ印刷出来上り，分担して発送領布
4.17 第4回準備会，左治木－戸高－栗原－佐野が参加，暫定名簿発行と創立総会を決定
5.15 第5回準備会，入江－松波尋が参加
5.17 暫定名簿'74発行，翌日から発送作業開始
5.29 第4回世話人会を仮事務所（井上宅）で開催

APA賛同者から

★井内澄子　（ピアノ）
純粋な音楽の喜びは，むしろアマチュアのものかもしれません。

★池辺晋一郎　（作曲）
当然あってよい団体の設立で，心からお祝い申しあげます。会員名簿のグレード表示法にはいささか問題があるように思いますが……。

★岩淵竜太郎　（ヴァイオリン）
出来るだけ早期に実現するためのことなら，何でもご相談御申し付け下さい。

★兎束龍夫　（ヴァイオリン）
ドイツにはMusizierenという特別な言葉があるくらい，こういう合奏活動が盛んです。うらやましいことだと思っていましたが，このたびのAPA設立はたいへんうれしいことです。

★小倉　朗　（作曲）
音楽の根っこづくりの会と存じます。僕も小さな編成でやれる曲をかいていく方向に向かっています。

★大石　清　（チューバ）
今後の日本音楽界を支えるのもアマチュアの力が大きいと思います。何かお手伝いできれば……。

★小原安正　（ギター）
日本の音楽の在り方が産業化していることに不満をもっています。APAの果たす役割は多大です。

★鴨井次郎　（トランペット）
前々からこういう会があれば良いと思っていました。

★菅野浩和　（作曲・評論）
物質文明だけが繁栄した今日のわが国です。音楽をはじめ，本当の精神文明の興隆こそ何より望ましいこと。私で出来ることなら何でも……。

★岸辺百百雄　（ヴァイオリン）
双手を挙げて賛成。福岡に支部をつくられるお考えがありましたら出来るだけのことをさせていただきます。

★小林　仁　（ピアノ）
アマチュアの演奏がもっと広がることが，音楽を本当の意味で定着させることになります。音楽を自分のものとすることが大切です。

★高木東六　（ピアノ・作曲）
素晴しい企画に脱帽。審美感覚の基本は楽器のアンサンブルにあると，小生は日頃から信じています。日本人はハーモニーの感度が鈍感なので，和音の悦

寄せられたことば

（50音順，敬称略）

びは，高次元の文化に繋がる母胎となるでしょう。

★外山　滋　（ヴァイオリン）
1 2,3年前より常々考えていることで，私も別な分野で同様な動きをしているつもりです。ただ……初心忘れるべからずデス。これは，我々プロにも同じことがいえます。

★中山富士雄　（トランペット）
私もアマチュアでした。今でも気持は似たようなものです。大いに発展を祈ります。（唯，アマチュアがそのまま発展すればよい音楽家につながるものでありますよう。）

★野村良雄　（音楽学）
ピュタゴラス以来のハルモニアに夢中の一人として新しいコミュニティの形成，発展に期待します。

★鳩山　寛　（ヴァイオリン）
アマチュア精神を常に忘れずに ―。

★浜中浩一　（クラリネット）
ピラミッドの底辺が広くなれば必然的に頂点も高くなります。非常に有意義な企画です。

★藤田玄播　（作曲・吹奏楽）
音楽の楽しみは合奏にあると言って過言ではありません。アマチュアが一人でも多くアンサンブルの楽しみを味わえることに意義があります。

★村川千秋　（指揮）
あくまでも公明正大に，大きな心を持って"音楽する"楽しみを広めて下さい。そして社会の中に音楽を浸透させることこそ音楽する全ての者の義務であると考えます。何年来待ちのぞんだことです。

★森　正　（指揮）
元来，プロだのアマだのの区別を好みませんが，ともかく，Playすることはいいことです。大賛成。

★湯浅譲二　（作曲）
音楽は専門家だけのものではありません。アマチュアが演奏することによって音楽をより楽しんでいくことは大変素晴らしいことだと思います。

★若杉　弘　（指揮）
永らく待ち望まれていた，素晴らしい運動に心から賛同。

★事務局に寄せられたアンケートの中から，編集責任でまとめました。なお，暫定名簿の締切後，次の方々が賛同者，特別会員となってくださいました。
角倉一朗（評論）　内田光子（ピアノ）

⊙創立披露パーティに集合 !!

1人でも多くのご出席をお待ちします

■APA創立総会当日のパーティ，プログラムのあらましをお知らせします。

・2:00～ 乾盃と来賓祝辞・2:15～会員演奏 ①バッカス木管五重奏団（桜井哲雄ほか）曲目未定②ミューズ室内合奏団（四方英雄ほか）ブランデンブルク第3番③"プロ・アマ・トリオ"（奈切敏朗，都河和彦ほか）大公トリオ④"280才クワルテット"（岸辺泰雄，平岩林ほか）モーツアルト・フルート四重奏曲⑤"とび入り"アンサンブル（会場にて募集／）もちろん曲目未定⑥"主婦クワルテット"（左治木恵美子，高田ジュディスほか）ラズモフスキー第3番

・演奏のあい間に来賓の祝辞，総会報告，本年度の事業計画発表等を予定しています・パーティの終了後に楽器持参者全員でほぼ1管編成で誰でも初見で奏ける石川嘉一氏編曲の「のみの歌」を演奏します。

・5:00～6:30別の小部屋で任意に相手を探してご希望の曲を合奏します。楽譜，譜面台をお忘れなく。

■1:00～2:00パーティに先立って開くAPR創立総会では，発起人によって会計報告，事業計画，予算案等を審議決定します。出席ご希望の会員はオブザーバーとして大歓迎です。会の運営方針，計画等をご理解いただくため，ご質問はいくらでもお受けします。また総会の議事終了後にはパーティにご出席の報道関係の方にご説明します。

■なお，当日2:00～7:00の間，会場にAPA特設の臨時託児室を設営しますので，お母さん方もふるってご参加を。元幼稚園主任荻山玉代さん，病院小児科看護婦坂口純子さんがお世話します。1才以上1人300円，2人500円です。ただし事前に事務局にお申し込み下さい。

会員名簿を発行。6月5日に会報0号を発行。10日後の6月15日には、設立準備東京連絡会創立総会・披露パーティを日本都市センター別館講堂で200名を集めて開催という早業でした。

このスタートに寄せて、会報0号では、クラシック音楽界の様々なプロたちからの感嘆、賛同、大いなる期待、さらには羨望まで飛び出した「お祝いメッセージ」が掲載され、読み応え十分。これは半世紀を経た今を生きる我々にも通じるエールのように思えます。

巻末の「発起人素描」では、発起人代表の井上明氏を始め、19名からなる発起人の横顔を短く紹介。今も活躍されるメンバーには、脱帽ものです。また、事務局だよりでは、合奏報告を促し、かつ合奏グループ結成の動きを素早くキャッチしようとする積極的な姿勢がわかります。こうした活動が、その後の例会活動の誕生につながっていくわけです。次のページからは、その例会活動などを紹介していきます。

＜会の運営費用について＞

会は現在のところ発起人による出資金の他，どこからも援助を得ていません。それは，会の必要最小限の運営基盤が組織的，財政的に安定する見通しがつくまで，会の公共的性格から考えて，特定の企業，団体に援助を申し入れることは会の発展のために好ましくない，と考えているからです。

とはいいましても，下記の会計報告でもおわかり頂けますように現在までの支出額は創立費用であるといっても予想外の支出になっており，資金の捻出に苦慮しています。

会員が多くなれば相対的に割安の費用ですみますが会の存在を知ってもらう宣伝活動，会の内容をより魅力的にする諸事業がなければ会員は増えません。こういった宣伝・事業活動には莫大な費用がかかるというジレンマがあります。（更に，入会金はともかく年会費に関しては年額6000円では，多少無理なのではという予想も一部にあります。）

会といたしましては，ひもつきには絶対なれませんが，現実に即して，私企業であっても会の趣旨を理解し積極的に援助してくださる所があれば，これ受けて運営費の不足を補い，これまでできなかったことをそれによってより積極的に行うなどの努力をしてみたいと考えています。会員の皆様のご理解とご支援を重ねてお願い申し上げます。

（発起人代表　井上　明）

準備段階会計報告　48年12月～49年5月末迄

＜収入＞		＜支出＞	
入会金(212名分)	202,000	事務・調査費他	111,618
年会費(〃〃)	91,800	備品費	186,315
名簿代(151〃)	77,500	宣伝・会議費	115,554
賛助会費等	63,000	パンフレット	180,000
その他	8,700	渉外関係費	44,630
出資金	850,000	くりこし金	654,883
計	1,293,000	計	1,293,000
（未収金）		（未払金）	
会費等(67名分)	92,500	事務調査費	62,355
名簿代(122名分)	61,000	名簿印刷発送	418,944
広告収入	28,000	その他	64,650
計	181,500	計	545,949

注）出資金は発起人有志による無利息融資です。

発会おめでとう
弦楽器の
お茶の水駅前　下倉楽器
Tel 東京（293）7706～9

祝・APA東京連絡会設立
輸入楽譜なら何でも……
アカデミア・ミュージック
（本郷2丁目バス停）電話（03）-813-6751(代)

CHAKI
STRINGED INSTRUMENTS
2-chome1-11, Koishikawa,
Bunkyo-ku, Tokyo
PHONE: Tokyo (811) 2084 (814)0974

nero
世界の名器直輸入販売
どうぞ電話でお問合せください。
NERO MUSIC CO.,LTD.
HIDEKO BLDG 2F, 1-30-4 JINGUMAE
SHIBUYA-KU TOKYO, JAPAN
TEL.409-7466, 5766

直輸入弦楽器と弓・只今入荷
御予算を最も効率良く生かし，高品位の楽器で，演奏を楽しみましょう。オールド物のほかに，現代名工の作品も取扱っております
APA会員
Tel. 045　長峯バイオリン
973-3783　横浜市緑区千草台33－255

毎月1回日曜夜・ナマの室内楽演奏
荻窪駅南口・電話局西隣
名曲喫茶　ミニヨン
電話（03）-398-1758

広告大募集!!
楽器店・名曲喫茶・演奏会の宣伝
広告等大歓迎
APA事務局

会報0号、1号の告知板より～50年前もみんな仲間とつながりたかった！

★現在Vn（57歳）Va（60歳）の仲間あり、同世代でVn1・Vn2も弾ける人と知り合いたい。（港区Vc萩正勝）★当方、医師兼主婦です。腕前の方は不明ですが、近辺の方と合奏したいと思います。（文京区Vn・Pf小倉まき子）★先日久し振りに楽器を引き出して弾いてみると思ったほど腕も落ちていない（？）ようで、ぜひ誰かと合わせたいと思っています。（日野市Vn林英治）★桐朋学園ピアノ科卒、ピアノトリオかピアノ伴奏を希望しています。（大垣市Pf菱田安子）★フルートを習って2年！是非近くの人と合奏し、喜びを味わいたいのですが、この会に入会して巡り合うチャンスを望みたいです。（富士見市Fl黒瀬ゆりか）★ただいま岡山にてメンバー探し中、Pf・Vc・Vaは揃いましたがVnが不足しています。岡山にも支部を作りたいです。（倉敷市Vn・Va菊地東）★新潟響では弦楽器奏者が欠乏し、存続が危ぶまれています。この組織を通して隠れた弦楽器奏者との交流を期待。（新潟市Vn・Va大塚哲夫）★地方在住の場合、とくにこのような会の存在が大きいと思います。地域の紹介にも力を入れてください。（琴平市Vn岩崎保明）★「音楽を愛する方ならどなたでも」という会の趣旨から、運営は簡明に、具体的は活動（合奏）は会員同志で処理させるように。（練馬区Vn・Va石森浩一郎）★スズキVnの1/4ｏｒ1/2譲ります。スズキVcの1/2ｏｒ3/4求む。（松戸市Vn松本巌）★弦楽器10～12名編成で主にバロックをレパートリーとする室内楽サークルをもちたい。（港区Vn宮坂力）

＜発起人素描＞

井上　明（Vn）
ＡＰＡの主唱者。パンフレットのエピソードの本人。夫人共々毎日電話の応待と手紙の発送に大忙し。Vn製作文化史のかくれた権威。

井上卓也（Ob）
立大オケ以来アマチュアに知る人ぞ知る名オーボイスト。合奏・独奏指揮とひく手あまたのつき合いに明けくれ未だ独身。

宇野　弘（Pf）
堂々とした体軀の指先から絶妙な音色のニュアンスを出す名手。井上と中学1年以来のつき合いで，準備会前史のメンバー。

太田雅夫（Vc）
趣味であるかの如くやたらに世話役を引き受け，なんとかやっつける天才。そのくせその能力をほめられるのは嫌いで，チェロ奏きであることを強調する。

岡田康一（Vc）
名大入学と同時に大学オケ連盟の組織化に参画。ＯＢ擬委員長・副委員長を歴任。有言実行型。

柏田晃夫（Ob）
前ムジークフローの委員長。突如転勤を命ぜられ札幌から一時間余の余市町に閉じ込められた。出張，旅行の際は訪ねてあげて。喜ぶよ。

岸辺泰雄（Vc）　Ｐ６参照

左治木意美子（Vn）
夫君のVcはあまりものにならなかったそうだが，長男がVn，次男がVcをする音楽一家。土日には千客万来で合奏を楽しむという。

白井次郎（Va・Cb）Ｐ６参照

杉山　茂（Vn）
大学オケで勝めたコンマスの腕をさらにみがき，自営業でわりと暇な若主人の地位をフルに活用し，ユニークなバブロ合奏団を主宰。

関口茂雄（Hr）
新日響の委員長。忙しい流通業界勤務から，アマチュア活動に理解ある楽器会社に鞍変えして今後の活躍が期待される。

竹内康人（Vn）
地方大学オケでひときわ実力派の東北大を卒業し，都下のアパートに5年間埋もれていた人材。大学オケ連の創立メンバー。

田丸卓也（Cf）
ムジークフロー委員長。何事にも規律と筋を求める理論実力派。一目ぼれの新妻もVnを始めたとか。

中馬　脩（Vc）
プロ級の腕前の持ち主。近年は，専ら指揮とガンバの演奏に情熱を燃やす。「マタイ」のガンバ・ソロでは公演にお呼びが多い。

中村康雄（Fl・Va）
昔，楽器で生きようかと真剣に考えたという純粋さ。１０年来のクワルテットの固定メンバーが新潟に勤務になり，会の重要性を強調することしきり。

長谷川武久（Vn）
自らアマチュアとして楽器をもつ音楽評論家。早大ＯＢによる２つの弦楽四重奏団，木管五重奏団，ピアノトリオより成るアンサンブる会主宰。

半田昇三（Vc）
多忙な会社勤務の暇を見て，そこかしこの合奏に首をつっこむ。青木十良門下。一見ソフトタッチの好青年。しかし芯は強い。独身。

平岩　林（Va）
知らぬ人とてないアマチュア音楽界の至宝。合奏と酒さえあればだが，高血圧にドクターストップあり，余り勧めるのは控えよ。

松本　巌（Vn）
楽友協会の目立たぬ支柱。各合奏団・オケにおけるアンサンブルキャリア抜群。会の発展に社会的な意義をいち早く感じとった社会派。

事務局だより

この会報0号は，会ができるまでの経緯と，創立総会披露パーティで会員がたくさん集まってとても楽しい会になりますよ，ということを宣伝するために作成されました。ですから，もしかしたら欠席とか，返事を出していない方で，是非出席しようという気になっていただけましたら，直ちに事務局までお電話ください。

◇会の運営企画のためのデータを提供してください。

①**合奏報告**……会の財産は会員の皆様ですが，その財産内容のいかんは，会員同士がうまく連絡をとり合って合奏ができているか，すなわち，名簿がどのように有効に使われているかということです。単に名簿に名を連ねる会員ばかり増えてもしかたがないと思いませんか。その意味で，会員の動向を定常的，量的に把握することが是非必要です。２人以上の会員同士が合奏した場合は必ず，ダブらぬように報告する習慣をつけてください。②**合奏グループ結成登録ハガキ**…会員が1人以上加わっていて，定期的合奏（１～２ケ月に１回以上）をするとき決めたグループは登録をお願いします。グループの増加員合によって，会の企画も変えて行くつもりです。③**合奏団情報**……暫定名簿の団体一覧に載っていない団体，載っていて間違っているものがありましたら是非ご一報ください。

◇会報第1号の記事募集

会報は会員間の唯一のコミュニケーションの場です。できるだけ多くの方々の声，ご希望，お誘い，各種情報の投稿をお願いします。次回第1号（創刊号）発行は6月末か7月初旬の予定です。

多彩な活動を展開 APA例会・定例発表会

エイパをスタートして以来、力を入れてきた活動の一つが、例会活動です。
幹事を中心に、そこに集うメンバーたちが試行錯誤を重ねながら、それぞれで室内楽の楽しさを分かち合ってきました。
例会というスタイルをとらずに、定例発表会の形で運営されているケースもあります。
ここでは各例会・定例発表会の幹事・世話人さんたちがそれぞれの活動を紹介します。

♫西武線例会

磯地英樹

第1回例会はAPA創立の翌年1975年（昭和50年）3月16日に練馬区公民館で開催。以後メンバー、幹事、開催場所はどんどん変わり、危機もあったようですが、何とか引き継ぎ、2007年（平成19年）年6月からは西武池袋線大泉学園駅より徒歩7分のスタジオ・プリモーラと近所の「ゆうわ会館」が例会開催場所となり、固定して活動してきました。

当例会は弦楽器・管楽器・ピアノのバランスが良く、バラエティに富んだ編成曲目を演奏できます。開催は原則第2日曜日。1月半前に参加者・希望曲を募り、幹事が進行表を決定するエントリー制になっております。毎回15名ほどが3室、1コマ1時間、12枠の合奏を楽しんでいます。

♫さいたま例会

後藤邦之

さいたま例会はAPAの数ある例会の中でも古株の例会の一つです。一時は存続も危ぶまれたのですが、現在では皆様のご協力を得て、盛会になりました。

さいたま例会では多くの人といろいろな曲の合奏を楽しむことを方針としております。そのため発表会は行なっておりません。毎月の演奏はリクエスト曲を持ち寄って、それからメンバーを決めるので毎回新鮮です。リクエスト曲は難しい曲ばかりでなく、弾きやすい曲も受け付けていますので合奏初心者の方も参加しやすいと思います。この頃は難しい曲のリクエストが多く少々困っております

が・・・。さいたま例会の特徴として例会終了後に懇親会（飲み会）を開いております。楽しいですよ。

♫埼玉予約例会

高草木恵二

埼玉予約例会では、各年上期（4月～9月）と下期（10月～3月）に活動期間を区切り、各期ごとに参加登録者の中で多くのグループを組み、確定したメンバーで確定した曲目を、半年間月1回程度の練習を積み重ねてレベルを高め、演奏会本番に乗せる、という活動をしております。即席グループでの演奏ではなく、メンバーと曲目を「予約」して確定の上、本番に向けて練習を積み重ねる趣旨を持っているため、「予約例会」の会名を持っております。より深く合奏を楽しみたい方々、ぜひご参画ください。練習と本番は、彩の国さいたま芸術劇場を利用しています。見学・自由合奏参加も受け付けます。

♫田園都市例会

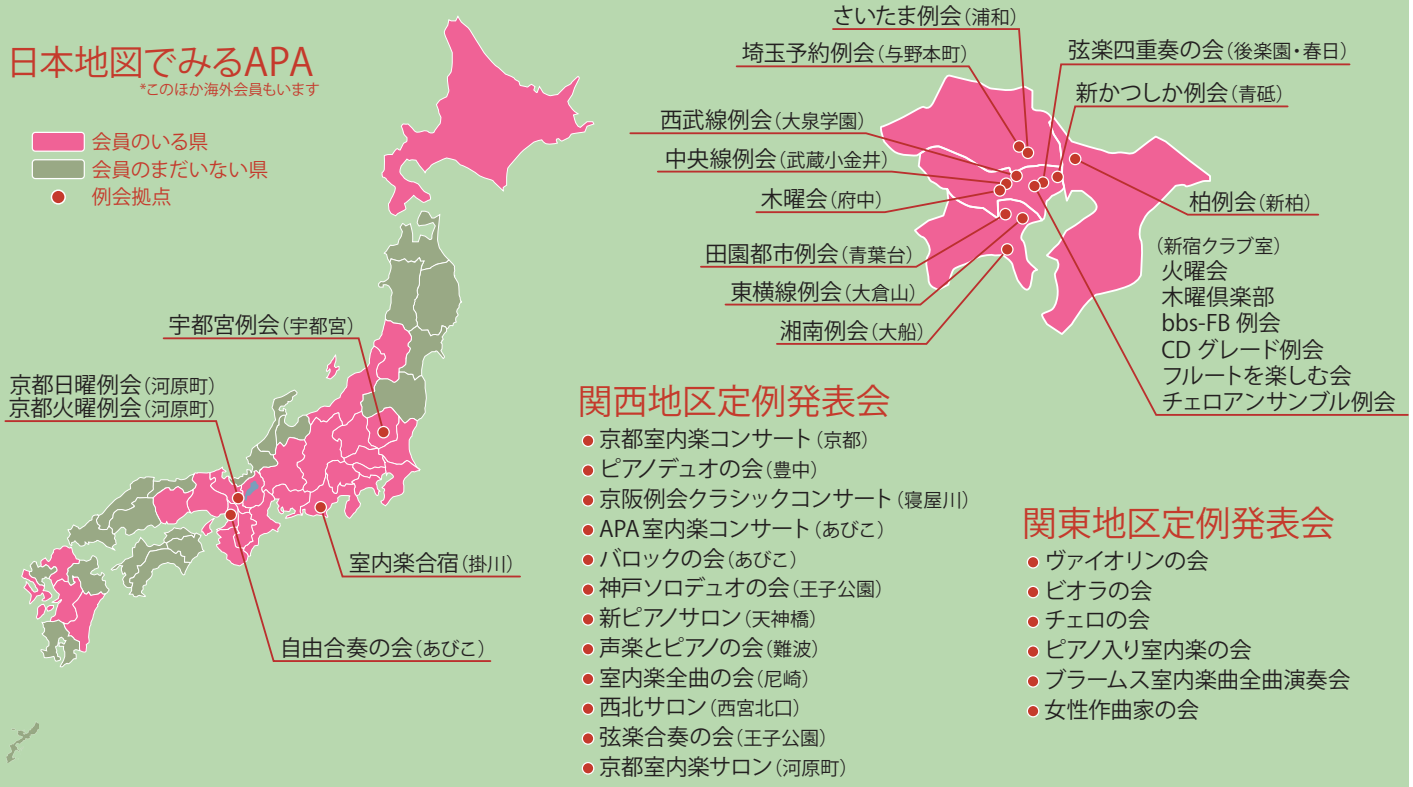
五百沢 透

田園都市例会はAPA創立後比較的すぐにできたと諸先輩から伺っていますので、すでに設立後40年以上続いている長寿の例会です。昔は田園都市〝線〟例会と言っていましたが、毎回20名前後の合奏好きが、名前の通り東急田園都市線の青葉台駅前にありますフィリアホール練習室を拠点として月に一度の例会と年一度の発表会を欠かさず活動しています。

あまり演奏の巧拙は問わず、家族的雰囲気をモットーとしながら、高齢のメンバーにもゆっくり楽しんでいただけるように、そこにはジジババと言うには、ほど遠い若

各地に拡がるエイパの例会・定例発表会活動

いつでも、どこでも、室内楽でつながる



人口密集地にどうしても例会・定例発表会は集中しがち。
どうしたら、全国に活動の拠点作りができるか、APA50 年の課題でもある

い人たちも交じりながら、和気あいあいと合奏できるのが、田園都市例会の魅力という声がメンバーたちから聞こえてきます。

荒井 隆

♫東横線例会

東横線例会は、前身の横浜例会が1979年に設立されて以降、主に東急東横線大倉山駅近辺の大倉山記念館で毎月1回の月例会を開催しているほか、横浜市内の公共施設を利用した発表会活動を年2回開催しています。最近は、エイパの中でも発表会活動を前提とした例会活動（発表会で取り上げる曲を月例会で行う）が主流になっている面がありますが、東横線例会は、発表会で取り上げる曲を出場メンバーでやっても良し、それ以外のメンバーでそれ以外の曲を取り上げることでも良しということになっています。曲目は「トリオ以上」という制約がありますが、何でもOKで、例会常連メンバーでなくても楽器を適宜弾ける人だったら誰でも参加できます。

吉田 晃

♫湘南例会

湘南例会創立以前には、横浜・湘南近辺にはAPAの例会がなく、合奏仲間を求めて遠くの例会に参加していたところ、たまたま横浜・湘南地区に住んでいるもの同士がめぐり合い、ヴァイオリン2人、チェロ1人、ピアノ1人の合計4人で1977年12月に湘南例会を立ち上げました。初めは毎月例会を個人宅持ち回りで開催していましたが、1978年4月例会から鎌倉の玉縄青少年会館・音楽室を拠点に仲間を増やしてきました。

当例会では合奏室が1室しか取れないため、初心者、ベテランに関係なく、広くみんなでアンサンブルを楽しむという方針で、弦楽四重奏曲であろうとも全員で合奏を行なっています。現在は、基本的に毎月第2土曜日の午後に集まっています。

篠崎 透

♫柏例会

当例会は臼田信夫・正子夫妻を中心に1988年に創設。練習会場が柏市内であったことから「柏例会」と命名、1989年11月に第1回演奏会を開催しました。以来35年、年2回の演奏会を定期的に開催し、2025年1月には第71回演奏会を迎えることができました。千葉県東葛地域のアマチュア室内楽団体として一定の認知度を得ており、演奏会に来場いただく一般聴衆は100名を超

えています。

創設当初から、半年間はメンバーを固定して計６回の練習で曲を一緒に作り上げることを主目的としており、演奏会は「練習の成果発表の場」であるというスタンスを取っています。なお演奏会後には毎回懇親の場を設けて親睦を図るようにしています。

♫新かつしか例会

楠昌司

約10年続いた「かつしか例会」を受けて「新かつしか例会」は、２０２３年10月から活動を開始しました。場所は葛飾シンフォニーヒルズの練習室３室を使っています。月１回、土曜か日曜の午後１時から５時まで開催しています。グランドピアノがある部屋は、大編成の室内楽が可能です。残りの２室は五重奏までの室内楽が可能です。２ヵ月前に希望曲を募集し、その希望曲に対する参加希望者を募集します。その後、編成担当者が進行表を完成して公開します。

毎回10数名の参加者があり、演奏曲は６～７曲になることが多く１曲の合奏時間は70分です。室内楽の仲間を増やすというＡＰＡの理念に適した例会です。

♫中央線例会

山下早代子

中央線例会は、２０１３年発足の比較的若い例会です。現在、年に４回テーマ別にコンサートを実施しています。日頃の成果発表、作曲家や国別の特集、年末の『年忘れ室内楽祭』、そして海外の演奏者との『国際室内楽音楽祭』です。

これらのコンサートは初代例会代表の吉田和道氏の掲げる３つの例会理念に沿っています。

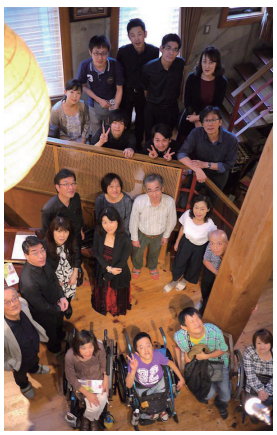
１つ目は室内楽歴の浅い会員も積極的に参加できる発表会。

２つ目は知られていない作曲家の発掘―過去にはドホナーニ、チェコの作曲家、オランダの作曲家スペシャルなどを企画しました。

３つ目は、世界のアマチュア演奏家とＡＰＡ会員がコラボする音楽祭で、コロナの時期を除き、毎年開催。２０２５年３月には７回目となる『国際室内楽音楽祭』を実施。アメリカ、イギリス、オランダ、ドイツ、ポルトガルから13人のアマチュア奏者が来日し、日本人30人と共演します。

♫宇都宮例会

小松﨑倫子



宇都宮例会は２０１６年に発足し、今年で９年目を迎えます。毎月１回、基本的には第１土曜日の午後に宇都宮市内の生涯学習センターなどで活動しております。本例会の会員数は多くないこともあり、他例会や非会員の方の参加も多く、毎回アットホームな雰囲気で例会を実施しています。２０２３年と２０２４年夏には、日光霧降で初年度は「弦楽四重奏の会」の方々と、２年目は県内のアマオケ団員の方々を中心としたメンバーと合同合宿を行ないました。今年も実施予定ですので、栃木の温泉に入り、餃子を食べにいらっしゃるついでにぜひご参加ください。お待ちしております！

♫木曜会

矢口誠一

１９９０年代に弦楽器を中心としたメンバーで結成され、管楽器の充実に伴い、室内オーケストラとしての活動も平行して行なうようになりました。

現在、第１木曜日にオーケストラ、第４木曜日に室内楽を楽しんでいます。６月と12月に発表会を開催しています。

♫ＣＤグレード例会

土金由幸

室内楽のアンサンブルを経験できる例会として合奏曲や四重奏曲を参加者全員で楽しく弾いています。初めは弾ける所だけ弾けば良いという方針のもと、易しめの曲を中心に取り組む曲を前もってお知らせしています。初参加の方、見学の方大歓迎いたします。また久しぶりの方もご参加お待ちしています。

原則毎月第４日曜日　13時～17時

ＡＰＡクラブ室

♫木曜倶楽部

上松康子

今年は木曜倶楽部創立10周年でもあります。当初10名ほどだった会も、今では20数名となり、ＨＰ経由の会員も少しずつ増えています。〝仲良く、楽しく合奏しよう〟というコンセプトで、学生時代の部活のようにランチタイムにも話がはずみます。初心者からベテランまで、組み合わせに工夫して全員が楽しめるようにしています。

現代は数限りない趣味を楽しめる時代ですが、楽器を嗜む方にとって、室内楽

APA例会・定例発表会

というのはお楽しみが詰まった宝庫のようなものではないでしょうか。一度その味を知ったら止められなくなるこのおいしさを、できるだけ多くの方に知っていただけますよう、お手伝いができれば、とても嬉しく存じます。

♫火曜会

守屋朋子

火曜会はAPAクラブ室を活動拠点として、毎週火曜日に例会を開催しています。2部屋に区切って午後の時間に2枠、計4枠で開催します。40人ほどの活動メンバーは、ほぼ月に1回のペースで、都合の合う火曜日に参加しています。

曲の練習期間として1ヵ月半ほどを想定して、開催日の2ヵ月ほど前には演奏曲と演奏メンバーをアレンジします。見学大歓迎です。

毎年7月には、近郊の宿泊施設『藤野芸術の家』で泊りがけの合宿をしています。普段の定例会では取り上げにくい、ピアノ入りや六重奏、八重奏がよく演奏されます。グランドピアノのある部屋を3部屋借りて実施しています。

APA50周年の記念として立ち上げた「火曜日の午後は室内楽」というタイトルのホームページには火曜会に関する記事を載せています。ぜひご参照ください。

♫フルートを楽しむ会

馬渕普之

手元にある「第2回フルートを楽しむ会」発表会のプログラムを見ると、昭和51年（1976）8月8日（日）銀座山野楽器4階ホール、「第8番 グルックフルートコンチェルト 馬渕普之（fl）坂井由貴（pf）」との記載があります。APAのスタートとほぼ同時期に張り切って会に参加したことを今ではとても懐かしく思い出します。

現在の「フルートを楽しむ会」は、フルート属のみのアンサンブル曲に特化しています。6年前、慢性的な高齢化現象とコロナ禍でグループ活動を大々的に制限され、一時はメンバー数が実質3名と大幅にダウンしました。その後、メンバー募集の結果2024年度初頭に9名まで復活しましたので、年間の月例会の計画を組み、3月末には年間を振り返る「メの会」を行なおうと進めています。

♫チェロの会

竹内康高

チェロの会は年1回（主に春）、ミューザ川崎で開催している、チェロをメインにした室内楽作品の持ち寄りコンサートです。一人あたりの演奏時間に限りを設け、コンサートの最初から最後まで参加者や聴衆が聴いて楽しめる時間内としています。チェロ室内楽作品はメジャーなものは限られますが、毎回マイナーなものも含めて変化のある曲目が並びます。チェリストがAPA会員であるかどうかに関わらず、アンサンブル内に会員がいれば参加可能です。春の会報で参加受付の開始を案内しています。冬の会報でコンサートについて案内しています。これまで参加されたり聴きに来られたことがない会員の方々も、一度、聴きにお越しください。

♫チェロの会（秋のチェロの会）

臼井博昭

APAのチェリストも増え、年1回開催されていたチェロの会では発表の場が足りなくなってきたため、中馬脩さんの発起で2019年2月4日に品川駅構内の「ぬる燗佐藤御殿山茶寮」にチェロ弾き8名が集まり、発起人集会を行なった結果、秋にもチェロの発表会を開催することになりました。第1回を2019年10月13日に小山台会館大ホールで開催し、それ以降毎年開催しています。多い年は20人近い出演者がおり、なかなか交流の機会のないチェロ同士、打ち上げも盛り上がります。これからも弾きたい人が誰でも弾きたい曲を発表できるよう、知恵と工夫で運営をしていきたいと思います。幹事は初代末永直→現在二代目臼井博昭奮闘中。

♫ビオラの会

加藤美貴子

ビオラの会は、2025年で創設28年目を迎えます。年1回6月頃に開催しています。ビオラの人も立って弾こう！ということで始まったビオラの会。コンセプトは「ビオラが主役」です。みなさんどこから曲を見つけてくるのか、オリジナル曲、他の楽器からの編曲、いくつも名曲が並び、熱演が繰り広げられる、和やかな雰囲気の会です。みなさんの情熱に支えられ、ますます盛り上がりをみせています。

♫ヴァイオリンの会

小野弘達

ヴァイオリンの会は2004年に伊藤周さんによって創設され、2025年で創立22年を迎えます。コロナ禍も絶え間なく活動を続け、2014年～2024

年で延べ４６０人が演奏しました。

現在年２回（７月、２月）の演奏会例会を開催しています。ヴァイオリンの会の伝統として、演奏者は時間制限なしで丸々１曲（全楽章）演奏するのが通例となっており、ヴァイオリン奏者のみならず、ピアノ奏者にとっても貴重な全曲発表の場となっております。プロの演奏会ではなかなか採り上げられないような隠れた名曲が披露されることも多く、アマチュアならではの充実した演奏活動を展開しております。

♫弦楽四重奏の会

桑名尚子

弦楽四重奏は室内楽を愛する弦楽器奏者にとっての究極の目標ですが、半端な時間と努力でこの道を究めることはできません。だからといってこれらの名曲に触れる機会が少ないことは大変もったいないと思った初代幹事さんにより、気軽に弦楽四重奏曲に親しめる場として２００４年に発足しました。最初は発表を目的にせず、古典派の曲を中心にいつでも楽しめるレパートリーを皆で少しずつ増やしていましたが、次第に弦四の道をより深く進みたくなってきて、最近は演奏会や、セミナーなどの企画も増え、取り組む曲も近現代まで拡がってきました。20年の歴史の中、「平日弦四の会」があった時期もありますが、今は幹事不在のためお休み中です。

♫ピアノ入り室内楽の会

藤井紀子

会報をたどると２０００年秋に初めて早稲田大学理工学部竹内記念ラウンジにて開催されたようです。その後、場所をミューザ川崎内市民交流室に移して現在に至ります。毎年秋に開催される「ピアノ入りの室内楽の会」は全曲演奏できる数少ない場となっております。二重奏も可なので人気が高く、最近は２回開催するようになっています。ピアノと弦だけでなく管入りも多く見られます。皆さん時間をかけて準備していらっしゃるので聴き甲斐も弾き甲斐もある演奏会になっています。

♫ｂｂｓＦＢ例会

田部幹雄

ＡＰＡ-ｂｂｓはＡＰＡの活動を広く一般に知ってもらうため、18年前に開始した公開掲示板です。登録メンバーを主体にコンサート（年２回開催）や例会（ｂｂｓＦＢ例会）を通して交流を深めようという趣旨で開催していますが、現在はＦａｃｅｂｏｏｋで情報発信や参加を呼び掛けることが多くなっています。また、都内の地域限定の『アンサンブルを楽しむ会』（大田区、品川区、江東区）とも連携し、室内楽の普及活動を行なっています。例会は今年から第２土曜から第３土曜に変更して２ヵ月おきにクラブ室で開催していますが、ご希望があれば地方、施設、海外での開催も検討いたします。ご要望はブラキチまでお寄せください。

♫チェロアンサンブル例会

新巳喜男

チェリストには大きく二つのタイプがあって、アンサンブルも好きなタイプとあくまでもソロ演奏を好むタイプに分かれるようです。コロナ前に誕生した歴史の浅いチェロアンサンブル例会は紛れもなく前者のタイプのチェリストが集まり、持ち寄った譜面で古今東西の名曲に毎回挑戦しています。最大の特徴は、単一楽器ですから、どのパートを演奏してもよく、本人の技量にあったパートを選ぶことができます。そして時計回りに譜面を回覧することも、他の例会ではあまり見られない遊び方でしょう。

毎月第３金曜日の午後にクラブ室での開催が基本です。このところ「秋のチェロの会」には毎回チェロアンサンブルで出演しています。３月のＡＰＡ設立50周年記念パーティでは、新しい入会メンバーも加えて、８名で「ブラジル風バッハ第１番」に挑戦します。

♫女性作曲家の会

守屋朋子

今までに女性作曲家の曲のコンサートを５回、開催してきました。１回のコンサートで10曲ほど演奏しますが、まだまだ弾きたい曲が山のように残っています。印刷楽譜が出版されていること、及び参照できる音源があること、を前提として演奏曲を探しています。繰り返し演奏される曲も出てきて、新しい定番曲が出現しつつあります。

女性作曲家という枠から音楽の歴史を眺めてみる、あるいは視点をずらしてみるだけで違った世界が広がることを面白く思います。また歴史が取捨選択の中で落としてきたもののもったいなさを感じます。音楽の歴史は、その半分しか見てこなかったことに気づかされます。埋もれている宝の山をみなさまも一緒に発掘しませんか。

♫室内楽全曲の会

有馬善一

今年６月の例会で67回目となります。発表会形式の例会です。概ね年２回のペースでの開催ですが、30年以上続いて

APA例会・定例発表会

いることになります。

例会の発起人はAPAに多大な貢献をされた山田楊平さんです。例会の趣旨は、普段なかなかできない室内楽の大曲でも心置きなく弾こうというものです。そのため演奏時間の制限はありません。過去にシューベルトの弦楽五重奏曲やベートーヴェンの七重奏曲なども演奏されました。山田さんが亡くなった後、有馬が2017年から世話人を引き継いでいます。

主な会場は尼崎市のピッコロシアター小ホールです。比較的低廉な料金で使用でき、音の響きも悪くはありません。今後も長く続けていければと考えています。

♫エイパ室内楽コンサート

梶岡肇

室内楽中心の会で、毎年2月と9月にそれぞれ別会場で開催しています。特に9月は会場に電子チェンバロがあるので、バロック曲も演奏されます。

♫京都日曜例会・火曜例会

斎藤武

日曜例会、火曜例会ともに、会場は、京都市中京区西木屋町通四条上る紙屋町672、永原ビル4Fです。阪急河原町駅A出口よりすぐ。どちらも月1回ずつ開催しています

時間13時~16時、または9時30分~12時30分。グランドピアノ、電子ピアノ、譜面台あります。プログラムは各自希望曲の持ち寄りです。手持ちの曲がなくても、予約なしでも、ご自由にご参加ください。会費は500円程度/1回。

開催予定、プログラムなどは、例会の掲示板にそのつど掲示されます（QRコードからご覧ください）。ご意見、ご希望など自由に書き込み可。バロック音楽のオケ譜面が完備しております。

現在、weekdayでも参加可能なヴィオラ奏者を求めております。

♫京都室内楽コンサート

有馬善一

今年3月の例会で41回目となります。2004年に始まった発表会形式の例会です。年2回のペースで開催しています。当時京都在住の有馬が発起人で、現在も世話人をしています。

例会の趣旨は、ピアノソロから編成の大きな室内楽まで、ジャンルにかかわらず発表をするというものです。演奏時間はだいたい30分以内としています。小品から大曲までバラエティーに富んだプログラムになることが多いです。

主な会場は京都市の北文化会館創造活動室です。抽選の倍率が高いため、会場が取れないことがありますが、音の響きが大変よいと出演者には好評です。皆さん意欲的な演奏をしていただいています。京都市の広報にも掲載されているので、それを見て、聴きに来られる方もいらっしゃいます。

♫京阪例会クラシックコンサート

辻本馨

京阪例会クラシックコンサートは、発表会形式の例会です。2004年4月4日に1回目の例会を行ない、今年で21年目、5月4日で第57回目を迎えます。例会発足当初は年間4回例会を行なっておりましたが、現在は春と秋、年間2回開催しております。演奏はソロから重奏、声楽から器楽と幅広く、皆さんの熱演が毎回楽しみです。

♫新ピアノサロン

梶岡肇

関西の例会の中ではかなり伝統のある例会です。いろいろ変遷を経て、現在はピアノソロおよびピアノを含むデュオの例会として、だいたい2月か3月ごろと10月ごろの年2回開催です。毎回多くの参加者をお迎えしています。

♫声楽とピアノの会

舟本典彦

いきなり幹事を引き継ぎましてから、早いもので12年になりました。「声楽とピアノの会」と唄ってはいますが、かなりラフな組み合わせでのアンサンブルも出ています。年3回開催しています。これからも大切に続けていきたいです。

♫西北サロン

宮野晶子

2004年に始めた会で、昨年結成20年、第60回を迎えることができました。会員の方のフェリーチェ音楽院でスタインウェイのピアノがあり、響きの良いホールを使わせていただいています。デュオ以上の発表会形式の例会です。デュオは15分以内、それ以上は18分以内とし、多くの方に気軽に参加していただける会を目指しています。例会の後の打ち上げも多数ご参加いただき、音楽談議に花を咲かせて楽しんでいます。年に3回、3月、7月、11月に開催しています。新しい方の参加も大歓迎です。

♫ピアノデュオの会

梶岡肇

2014年5月に2台ピアノ必須の曲のみの「2台ピアノの会」として発足しましたが、現在は連弾もOKとしています。毎年5月後半に開催しています。

♫自由合奏の会

梶岡肇

関西はほとんど発表会形式の例会なので、もっと自由に合奏できる場として2014年に発足しました。現在は毎年1月初めに新年会を兼ねて開催しています。演奏したい曲の楽譜を持ち寄って、その場にいるメンバーで即席合奏を楽し

APA例会・定例発表会

むという趣旨の会です。

♫神戸ソロ・デュオの会

松本めぐみ

ソロとデュオのみの会です。ピアノソロも可。1組30分ぐらいまで。神戸市王子公園前の原田の森ギャラリー401号にて年4回開催しています。毎回皆さんの熱演を聴かせていただき、音楽でさまざまな想いを感じるのを楽しみにしています。また選曲も多様で、毎回世界中の国々に連れて行っていただき、音楽の旅を楽しませていただいております。どうぞお気軽にご参加、ご視聴いただければ幸いです。

♫弦楽合奏の会

松本めぐみ

1日で弦楽合奏を練習して録画する会です。室内楽では難しい弦楽四重奏曲も合奏では1日で合わせられる喜びを感じています。録画は編集して

YouTubeのAPAチャンネルに投稿しています。

会場は神戸市の王子公園前の原田の森ギャラリー401号で年2回開催しています。録画は何度か撮り直したり大変ですが、いつも皆さんの温かいご協力をいただいております。

♫バロックの会

有馬善一

2022年にバロック時代とそれ以前の音楽を楽しむための例会を発起人の有馬が立ち上げました。当初年1回の開催でしたが、今後は年2回のペースで開催する予定です。アットホームな雰囲気の会です。

関西APA所有の電子チェンバロ（ローランドC—30）を使って、バロック時代の優雅な響きを身近に味わうことができます。

私事になりますが、例会を始めたころにヴィオラ・ダ・ガンバを始めました。フラウト・トラベルソを演奏する仲間もいます。今後、「ピリオド楽器」の輪を広げていきたいと考えています。また、合奏協奏曲など小編成の管弦楽の合奏もやっていく予定です。

会場は電子チェンバロを設置している大阪あびこのランズホール（マンションの半地下のこぢんまりとしたホール）です。

♫京都室内楽サロン

森幸子

2023年秋に第1回を開催したばかりのでき立てほやほやの音楽サロンです。年2回春と秋に観光客で超混みとなる京都の中心地（四条河原町）で開催します。発表部門と即席室内楽部門と弦楽合奏部門の構成で、午後1時半から6時まで演奏を堪能してもらうという試みで始めました。注目していただきたいのは即席室内楽部門。4曲の候補を決めて、個人で希望曲に応募していただき、こちらで編成をアレンジします。

当日は開演前にリハーサル、午後に発表。毎回素晴らしい演奏が聴けます。弦楽合奏は全員が参加。打ち上げはすぐそばの「ミュンヘン」(!!)の広い20人用個室。「聴いた・弾いた・飲んだ」の楽しい会です。

各例会・定例発表会へのお問い合わせ

各例会・定例発表会では、広く参加者を募集しています。気軽にお問い合わせの上、室内楽の醍醐味を存分に味わってみてください。「室内楽は初めて」の方にも優しく応対いたします。お問い合わせ先は左のQRコードから一覧でご覧いただけます。

APA50周年記念に寄せて

50周年記念イベントの開催

50周年記念ツールの制作

APA では、創立 50 周年に寄せて、50 周年記念誌（本誌）を制作。創立時の思いを始め、50 年の歴史を詳細に振り返りました。また、記念イベント開催、各種記念グッズ（ステッカー、キーホルダー、ポーチ、トートバッグ、6B 鉛筆）も制作しています。

50年ぶりにロゴを改訂

APA では、創立 50 周年を機に
①これからの APA を担っていただける現 APA 会員より相対的に若い新入会員を呼び込むこと。
②現会員の皆さんの求心力やモチベーションをより向上していただくこと
の 2 つを目的に、APA ロゴの刷新と APA の魅力を端的に表現するタグライン、ステイトメント（タグラインの説明文）を APA ロゴ作成プロジェクト委員会と、博報堂・米村浩さんのチームとで意見交換をしながらシェイプアップ。最終的な 2 案で 2024 年 3 月に会員アンケートを実施。その結果、採択されたのが、この新しいロゴです。
五線をモチーフにしたシンプルなデザイン、「室内楽で、つながる」という、APA の理念をわかりやすく表現したタグライン、そして「室内楽で、つながる」世界観を描写したステイトメント。これらは、室内楽をこよなく愛する私たちへのエールです。なお、本記念誌では、50 周年記念特別仕様のロゴを表紙周りで使用しています。

室内楽で、つながる。

エイパ
Amateur Music
Players'
Association Japan

わたしの出す音が
あなたの音と立体的に絡み合う。
その感覚は、たまらない。

それはまるでお互いの
自己紹介のよう。

様々な人々との出会いは、
私たちの人生を彩り、豊かにしてくれる。

室内楽はきっと、そんなつながりを深める入り口となる。

さあ、新しい世界とつながろう。

写真で見る年次大会

2017.3.5　昭和音楽大学　155 名

2019.3.9　分散年次大会　葛飾シンフォニーヒルズほか。西宮 28、名古屋 35、大倉山 39、豊洲 47、葛飾 62 の合計 211 名

2021.5.23　ベートーヴェン生誕 250 年①　79 名

2009.2.15　葛飾シンフォニーヒルズ　クライネス・コンツェルトハウス　97 名

2010.1.31　設立 35 周年　さいたま芸術劇場　ジャパン・ストリング・カルテット　130 名

2012.2.16　葛飾シンフォニーヒルズ　クァルテット・エクセルシオ　155 名

2014.2.16　さいたま芸術劇場　クワトロ・ピアチェーリ　135 名

2015.2.22　設立 40 周年　さいたま芸術劇場　ジャパン・ストリング・カルテット　161 名

写真で見る合宿 音楽祭①

1980.9.22　野辺山合宿　90 名

1978.7.31　軽井沢セミナーハウス合宿　36 名

クラブ室にも掲示されている合宿写真

1983.8.1　志賀高原合宿　Cd 家田厚志　170 名

1989.8.6　河口湖音楽祭　135 名

1985.8.3　志賀高原合宿　150 名

1991.7.28　河口湖音楽祭　東京ベートーヴェンカルテット　140 名

1990.7.22　河口湖音楽祭　Cd 岩淵竜太郎 & カウフマン　110 名

1995.7.30　河口湖音楽祭　久合田緑　中島良能　110 名

1994.7.31　河口湖音楽祭　イソ弦楽四重奏団　112 名

1998.10.11　河口湖音楽祭　ゼクステット魅生瑞　105 名

1996.10.12　河口湖音楽祭　宮本恵　佐々木真　94 名

2001.10.21　河口湖音楽祭　アンサンブル・シンポシオン　101 名

1999.10.11　河口湖音楽祭　アンサンブル・アルゴス　115 名

2004.10.17　河口湖音楽祭　Opus1+ 守山光三、阿部麿　100 名

2002.10.20　河口湖音楽祭　アンサンブル・ヴェガ　96 名

2006.10.15　河口湖音楽祭　エラン弦楽四重奏団＋馬込勇　94 名

2005.10.16　河口湖音楽祭　BSC カルテット＋森澤泰　89 名

写真で見る合宿 音楽祭②

2010.10.15　河口湖音楽祭　カントゥスカルテット＋鎌田比呂美　100名

2007.10.14　河口湖音楽祭　オブリオンカルテット＋阿部麿　95名

2015.10.18　河口湖音楽祭　西野ゆか、阿部麿 Family　72名

2014.10.20　河口湖音楽祭　WAO弦楽四重奏団　77名

2023.9.22-24　つま恋室内楽合宿　68名

2022.9.23-25　つま恋室内楽合宿　52名

2024.9.20-22　つま恋室内楽合宿　72名

APA会報

会報に寄せて

会報編集室　米倉敦子

――ある日ポストに入っていたAPAの会報。あなたはすぐに開封して読み始めますか？　それとも・・・

【1】会報のこれまで　～会報を作ってきた人たち～

記念すべき第1号の会報が発行されたのは1974年9月15日。発行人は、その時から最新の第189号まで一貫して永田雅夫副理事長です。初めの10年余り、発行回数や間隔は一定ではありませんでしたが、1988年5月第43号からは年4回の発行が定着しています。

第1号～第6号は、入江潔さん・松波龍一さん・渡部二郎さん・桑畑智英子さんの4人で編集作業をしていました。1976年2月第7号からは、石原章夫さんを中心に、草部博達さん、馬淵清資さん、渡辺文子さん、塩川真一郎さんが複数体制で編集に携わっていました。1982年2月第25号から加わった星名孝行さんは、27号からはお一人で20年間編集者を務められ、2000年3月第90号で濱田和博さんに引き継がれました。さらにその20年後、2020年6月第171号より米倉が担当しています。各楽器を手にしたイラストは初代編集者の一人である松波龍一さんが考案され、1975～2023年発行の名簿表紙にも使われています。松波さんは前APAロゴの考案者でもあります。その他本文中のイラストは、1993年12月第62号から鈴木克身さん、2006年9月第116号からKAOさん、2024年第186・187号は北川ひな子さんが担当されました。

また、APAの公式サイトが藤田勝四郎さんによって1997年7月に開設され、2002年6月第99号より、サイト内の会員ページでも会報を読めるようになっています。しかし、会員ページ担当者の辞任後、残念ながら2023年度第185号で更新が止まっています。

Web版会報として編集された最初の号

【2】会報がお手元に届くまで

編集室は発行日の3週間余り前から動き出します。まず、例会幹事・全アドレス登録会員宛にメールで原稿を依頼します。集まった原稿を整え、発行人の永田副理事長から巻頭ページの原稿や事務局便りをいただいて全体を整理し、発行人が最終確認、その後、印刷会社に発注します。以前はここでホッとできたのですが、昨年からはウェブ版の仕上げが加わりました。それを発行日前に何とか仕上げてPDF化し、一段落。そして、発行日当日にはクラブ室での発送作業。ボランティアで来てくださる方にお手伝いいただき、会報を封筒に封入。郵便局へ運び込み、やっと終了となります。

【3】会報の〝中身〟

印刷版の巻頭には本部企画のお知らせが満載です。そのあとは「告知板」として一般会員からの投稿・会員紹介と続きます。そしてメインの例会活動。みなさんは各例会の掲載順がおよそ決まっているのにお気づきでしょうか？　関東・首都圏は名簿掲載順、関西は印刷版の活動予定が実施日順・ウェブ版の活動報告が名簿順になっています（記念誌の例会紹介も名簿掲載順です）。締めは事務局便り。理事会報告などAPAの根幹にかかわる内容も多いので、ぜひご一読を。

2024年6月第187号より、印刷版Aとウェブ版Bの二部構成になりました。ウェブ版では、イベントでお世話になった講師の先生の講話や各例会の活動報告をたっぷりお楽しみいただけます。写真も豊富で、例会のサイトや活動を紹介する動画へつながるリンクも貼られています。

ウェブ版発行が決まったのが急でしたので編集室ではすぐに対応できず、桑名尚子さんに基本となるデザインを作っていただきました。それを勉強しながら上書きしていけばいいと思ったのですがその考えは甘く、インデザインという私にとって未知のソフトと格闘する猛暑の8月となりました。いまだに慣れないPCソフトに四苦八苦しています。

【4】会報のこれから

将来、会報が全面ウェブ化することは必至だと思われます。一般的に紙媒体の長所としては、そこにあるだけで読める、一目で全体像がわかる、保管しやすい、目にやさしいなどがあげられます。一方、ウェブの長所は、IT機器があり、ネット環境が整っていればどこでも読める、（会報の場合）カラーで見やすい、文字のサイズ変更が可能、保管に場所をとらないなどでしょう。

ある調査では80代の6割以上がスマホ所持者とのこと。でも電話とメール・LINEくらいしか利用しない人も多いようです。APAの基本精神「いつでも、どこでも、だれとでも」に則って考えると、会報を含む諸連絡を全面ウェブ化するためには、ある程度時間をかけて着地点を探っていく必要があると思います。また、どのようなウェブ会報を作っていくのかについても、大いに議論の余地があるところです。

現在の最大の課題は後継の編集者発掘です。APAの公式情報誌である会報を将来担っていただける方にうまくバトンタッチできるまでは、一人でも多くの方に読んでいただけるよう、さらに努力する所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

50年前誕生の初代ロゴ

NPO法人として

NPO法人とは…

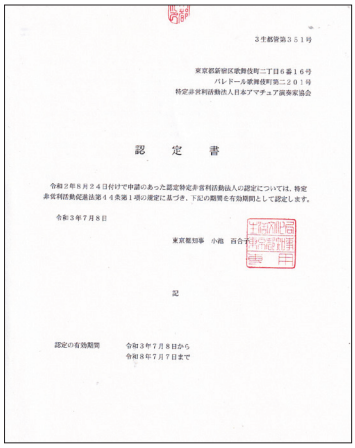
副理事長　永田雅夫

APAの運営拠点は、設立時の個人宅から、クラブ室という賃貸事務室（1977年）、所有権登記付き自前の西村記念クラブ室（1994年）へと進化してきました。運営体制も任意団体から、エイパクラブ室所有のための株式会社組織（1994年エイパクラブ株式会社設立）を経て、2008年特定非営利活動法人（NPO）に移行。さらに2010年には国税庁から、2020年には東京都から各5年間の認定NPO法人資格（注1）を得ています。

NPO法人としてエイパクラブ室を所有するために、額面5万円で10年償還の「発展エイパ債」という債券を100口以上発行して会員有志に引き受けていただいており、財政基盤（適正な資産）もある程度整った状態で現在に至っています。それまで楽しむためだけだったサークルが、NPOの看板を掲げることで、その輪を広げ、ネットワークとして、多くの愛好家とつながっていこうという方向性が加わりました。定款上では、従来通り楽しむだけで良い方は登録会員、NPOの活動に関わってゆきたい方が正会員となっており現状ほぼ半々の状態です。

合奏趣向では、積極的に発表したい方々もいらっしゃれば、内輪で楽しみたい方々も多くいらっしゃいますので、企業のように一つの方策で突き進むことはできませんが、こんなことをしてみたいとアイデアのある方が、ボランティアではなく人的・財政的にある程度のサポートを得て、取り組める組織になっていると思います。

（注1）認定NPO法人：都道府県から認定され、寄付金に対して確定申告で税額控除できる領収書を発行することができるという税制優遇がある法人で、「より客観的な基準において、高い公益性をもっている」と判定された法人。資格は5年ごとに更新される。



エイパクラブ室

エイパクラブ室とは、新宿歌舞伎町にあるエイパの事務室兼合奏室で、運営を担当されるクラブ室代表は2年前から海津暁夫さん。合奏室としての利用者は年会費と別途クラブ室会費を払うことで、鍵とインターネットでの予約可能なIDを付与されます。現在登録会員58名。

隣室との壁に防音ブロックと床面に遮音タイルカーペットを施した準防音合奏室は20平米で、事務室も20平米。両室は2重のガラス戸により、2室での同時合奏が可能。火曜会や、CDグレード例会、木曜倶楽部、チェロアンサンブル例会など多くの例会が開催されています。

備品としてアップライトピアノ、電子チェンバロ、Vn、Va、Vc2台、譜面台20本。常備楽譜500曲はジャンル別に閲覧用Boxに収納されています。事務室では、月2回、隔週水曜日が事務日で、Accessによる会員会費管理とExcelによるNPO法人会計が数名の有志会員との業務委託契約に基づき、行なわれています。

弦楽器専門店シャコンヌ

CHACONNE
DEALERS OF FINE VIOLINS

＊弦楽器の修理・調整、楽弓の修理・毛替え＊
＊ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロと楽弓の輸入販売＊
＊楽器レンタル(オールドイタリーから初心者用楽器まで)＊

LA FOLLE JOURNÉE TOKYO 2025
ストリングスEXPO ブース出展予定
2025年
5/3 sat. ~ 5 mon.
東京国際フォーラム
ホールB7

銀座展示会 同時開催
5/3~5 シャコンヌ銀座店にて

X : @chaconne_violin
Facebook : chaconne.violin.dealer
Instagram : chaconne.violin

シャコンヌ銀座店
東京都中央区銀座1丁目3-1
銀座富士屋ビル2F
TEL:03-3528-6735
Mail:ginza@chaconne.info

シャコンヌ吉祥寺店
東京都武蔵野市吉祥寺本町1丁目31-11
KSビル904
TEL:0422-23-1879
Mail:tokyo@chaconne.info

APA歴代理事長の横顔

西村銕次郎（1905～1997）チェロ　1978～1995

京都生まれ。東京大学管弦楽団在籍、大手繊維会社を経て大手百貨店時代にエイパに参加。1974年設立準備会では顧問、78年正式発足時に会長就任。

氏の活動は活発で、青山のお宅と前任地の住まいである芦屋を毎月往復されて東京と関西の例会に参加。年に数度、ロータリークラブでの海外旅行をこなされる中でACMPの仲間との交流も続けられ、1975年エイパで最初の訪米旅行（参加6名）を敢行された。

ご家族は過去、お嬢さま、お孫さん4名が会員の時もあり、家族ぐるみで活動。合宿委員を担当されている茅野市のVn水戸真紀さんがお孫さんの一人。

1982年、氏がオーナーとなってエイパ拠点となる事務所兼合奏室購入の提案をうけ、副会長柳原直彦氏が専務を務める木田建設の歌舞伎町のマンション・パレドール歌舞伎町に東京クラブ室を移転した。このクラブ室は1994年には、会員有志で設立したエイパクラブ株式会社で10年間の年賦で格安で購入させていただいた。数年後、債権を引き継がれた奥様から残りの年賦辞退のお申し出があり、その後、数年間、多くのゲスト招聘に活用。2008年にはNPO法人化に伴い、エイパに所有権を移転したが、「西村記念エイパ東京クラブ室」が正式呼称で、クラブ室は名実ともにエイパの運営と活動の拠点となっている。

なお、後任の会長は、1995年、青山のお宅から200メートルもないVa土屋喜一氏にご指名でバトンタッチされた。（永田雅夫 記）

志賀高原音楽祭（1984）で参加者のお子様たちと

土屋喜一（1930～2006）ヴィオラ　1995～2006

1996年会長就任時は早稲田大学理工学部教授（専門は人工心臓）。96年2月の年度総会でのご挨拶「ただ今、二川副理事長から過分なご紹介をいただいた土屋です。昨年夏ころ、現西村会長から、たまたま近くに住んでいるからという理由で、後をやってくれないかとの依頼を受け、断り切れずに受けることになりました。西村会長は90歳になっても現役を続けておられますので、私もあやかって長生きしたいとは思いますが、会長職としては数年、皆様のために務めたいと考えています」。

会長として何か貢献したいということで、理工学部キャンパスの竹内ラウンジを提供いただき、96年7月から年4～5回「早稲田室内楽の会（通称早大理工コンサート）」がスタートした。希望例会による発表会と別室で自由合奏が行なわれ、2005年12月まで続いた。早大理工の場がなくなったことで他に場を求めて、「Pf入り室内楽の会」がスタートした。

氏の専門が活きた活動としては、2001年2月18日のみなとみらい年次大会で早大理工学部高西研で開発中の人間型フルート演奏ロボットの参加を推薦いただき、モーツァルトのフルート四重奏曲を土屋会長もVaを担当。フルート担当のロボットのメモリーの制約で第一楽章の途中までを合奏された。

2006年春に古い友人のVn二川博氏に会長職を指名されて、同年4月に逝去された。お別れの会は本人の遺言で「皆弦機会」が理工学部有志の主催で7月31日に開かれ、二川次期会長以下10数名が追悼演奏を行なった。（永田雅夫 記）

フルートを吹くロボット（後方）との合奏（中央）

二川 博（1930～2012）ヴァイオリン　2006～2010

前任の土屋会長とはワセオケ同期で最初の就職先企業も同じ、その後、転職先で役員として日刊工業新聞「人」欄に取り上げられ、エイパの宣伝に一役。

退職後、Vnを弾く機会を増やし、かつエイパクラブ室の利用度を高める目的で1994年10月、毎週開催の「火曜会」を創設して毎週参加。ハイドン以外の古典派ロマン派の作曲家の弦楽四重奏曲をすべてノンストップで合奏することを最上の楽しみとされた。

また稀代のヴァイオリン収集家で、ひいきの楽器屋に日参して掘り出し物を探し出し、手入れによって楽器の評価を上げたり、手持ちの2丁でワングレード上の楽器を入手したりで愛器は増える一方、亡くなられた時は8台のヴァイオリンがあった由。多くのエイパ会員の楽器購入の良きアドバイザーでもあった。ご家族は、ご子息のお二人とも夫妻で弦楽器を演奏される全員エイパ会員の音楽一家。

趣味のもう一つは油絵。都の公募展に入選したこともあり、合奏の合間のスケッチで肖像画をプレゼントされた会員もいる。それゆえ、会長職を受ける際も趣味と演奏活動優先で運営には関わらない旨を宣言されての就任だった。にもかかわらず、ちょうど任意団体からNPO法人設立の動きの中で2008年は多くの会合に立ち会われ、2008年7月、初代NPO理事長に就任。設立理事長の大任を務められた後、2010年1月31日の年次大会総会において後任にVc中馬脩氏を指名して任を終えられた。2012年逝去、享年82歳。（永田雅夫 記）

2008年のNPO設立総会で（前列中央）

関西支部の変遷

1974~1977	支部長	西村錬次郎	幹事長 白井次郎
1978~1985	支部長	白井次郎	幹事長 山田揚平
	支部長	（空席）	幹事長 山田揚平
1988~1997	支部長	小河清麿	幹事長 山田揚平
1997~2017	支部長	大川真一郎	幹事長 山田揚平
2018~	支部担当	副理事長	梶岡肇

中馬 脩（1933～）チェロ　2010～2021

東京生まれ。疎開から帰京した15歳の時初めてクラシック音楽を知り、フルートを自作したりしつつ、19歳で念願のチェロを購入、内田光世師に師事。東京農工大で酵素の研究をしながらも、めきめき才能を伸ばし、わずか2年でプロでも通用する腕前となり、あちこちのプロ・アマオケに参加。その中の縁で龍角散の藤井康男社長に乞われ、チェロで稼がないことを条件にヤトロンに入社。39歳でヴァイオリニストの敬子氏と結婚し、氏のレッスンを受けに自宅に来る子どもたちに手料理を食べさせ、慕われた由。ヤトロンでは技術系役員を経て、66歳で退職。

定年後、誕生日の4月25日には毎年ソロ・リサイタルでソナタやコンチェルトを披露し、高齢者たちの希望の星となる。長生きの秘訣かは不明だが、朝食は毎日ブロッコリーとりんご。

2023年ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏でOp.18-2を演奏（左から2人目）

APAには設立時から井上明氏との縁で関与し、さいたま例会に参加していたが、より本格的に合奏に取り組むため、埼玉予約例会を設立。また、チェロ奏者に多くの演奏機会を提供するため、チェロの発表会を増やすことを期して発起人を集め、秋のチェロの会を設立。

音楽以外にもHOゲージ、釣り、蘭など趣味は多彩で、いずれも玄人はだしのレベル。腹囲を「緊急対応力」と呼び、腹囲が太くなるほど緊急対応力が上がる、今は108だ。などと冗談めいて仰っていたが、91歳で入院して食事が喉を通らなくなった際、実際に緊急対応力を発揮された。（桑名尚子 記）

林 英治（1938～2022）ヴァイオリン・ヴィオラ　2021～2022

東京生まれ。戦中から戦後にかけて静岡県東部の函南（かんなみ）町で過ごした。1954年に都立高校に編入。56年に東京大学オーケストラに入団。1974年のAPA設立初年度にいち早く入会され、NPO法人設立時には監事を務めた。

毎週3つのオーケストラと首都圏のほとんどの例会に参加された活躍ぶりには、いつも驚かされた。毎月の交通費が5万円近くにもなることもあった。朝、昼、晩と異なる練習会場で、持ち前の柔和な物腰と豊富な経験で、誰からも親しまれたのは記憶に新しい。

2015年の弦四の会で（前列左端）

活動範囲の広さとともに、固定メンバーでの室内楽もこよなく愛され、「キーヘンカルテット」（桜井、柿沼、林、楠田）では、2005年から15年にわたり、ハイドンの弦楽四重奏全曲や、ショスタコ、バルトーク、ヤナーチェクを楽しんだ。筆者も、2006年から新所沢アンサンブル（船橋、新、林、菅）としてハイドン全曲にチャレンジしたのは楽しい思い出。当時、すでにハイドンの83曲は3回ほど経験ずみなのに、ニコニコされながら楽しまれていた。練習後の酒席も楽しい話題に包まれた。平日弦四の会や、弦楽四重奏の会の世話人も務めた。

理事会では、議事進行を任されることが多く、その滑舌の良さと進行の鮮やかさは人後に落ちない。2010年に副理事長、2022年、中馬さんの退任を受け、理事長に就任。そのわずか9ヵ月後の7月8日、脳出血で倒れ、急逝された。享年84歳。会報180号では、2頁にわたり追悼記事が組まれ、たくさんの友人たちが誌面に思いを寄せた。（新巳喜男 記）

奥村早苗（1959～）ピアノ・チェンバロ・フルート　2022～

東京生まれの奥村さんといえば、合宿。1981年に第1回目の北軽井沢合宿に参加し、すぐ入会。その後、82年志賀高原合宿以降、88年まで合宿には欠かさず参加。99年から河口湖音楽祭（合宿）のお手伝いを始め、2001年～2015年河口湖音楽祭担当委員を務めた。

2024年の掛川合宿でバロックを楽しむ（右端）

本職は鍵盤楽器なのに、毎年、APAの音楽祭にふさわしい優れた若手の弦楽四重奏団をゲストに連れてくる素晴らしい才能の持ち主。ご本人曰く「合宿が大好きで、ピアノを弾くより、おしゃべりが好きで、プロ演奏家以上にアマチュアが好きで、合宿のゲストにはアマチュアをリスペクトしてくれるグループを探すことに熱い」。

合宿参加者全員の名前と顔を覚え、皆さんが居心地よく過ごせるよう配慮し、かつ、全体を統率するリーダーシップの実績を買われ、2022年理事長就任。就任後も、同年に再開したつま恋での合宿準備委員のリーダーを務め、室内楽交流サロンも、今回の50周年記念イベントも担当委員で、現場もガッツリ治められる頼もしい理事長。APAイベントの練習や本番のある日は、出番がなくても会場に駆けつけ、立ち合いし、担当委員や参加者のフォローをしていらっしゃる。もちろん、理事長として、APAの運営が円滑に進むよう気を配り、活発に行動されている。

楽器以外のご趣味は、ラグビー観戦。また、サッカーのFC東京の運営ボランティアは、25年目で、シーズン中の土日は、楽器を弾く暇がないとか。（水戸真紀 記）

あの日、あの時。

APA50年の活動では、様々な出会いがあり、その時々の「音」が各地で誕生し、多様なドラマが生まれました。ここでは、延べ4300人が在籍したAPAのごくわずかな「あの日、あの時」の扉を開けてみましょう。

40数年の関西APAとの歩みの中で

美坂壽子（兵庫、神奈川・ヴァイオリン）

日本アマチュア演奏家協会（APA）設立50周年、大変おめでとうございます。様々な形で長年お世話くださった理事の皆々様に感謝と御礼を申し上げます。

私は1982年ごろから関西APAで数多くのかけがえのない素晴らしい楽友に恵まれ、様々な室内楽を共にし、その音楽体験は人生の大きな宝物となりました。室内楽の素晴らしさをご教示くださったAPAの皆様に心からの感謝でいっぱいです。40年余りの活動は言葉では表せないほど素晴らしい音楽体験でしたが、誌面の都合上、50年のAPA史にぜひ記録していただきたい、素晴らしい先輩の方々との繋がりの体験を記させていただきます。

●西村銕次郎様のこと（チェロ・故人）

西村様は関西財界でご活躍なさり、APA創設にご尽力くださった室内楽愛好家のチェリストであられました。海外での室内楽のご体験が大変豊富で、海外にもたくさんの楽友をお持ちでした。日本でもぜひアマチュアの室内楽愛好家グループを作りたいという想いでご尽力くださり、財政面でもお支えいただき、APA創設をなさったと伺っております。

1984年4月のAPA総会でのオーケストラ演奏。チェロの正面が西村銕二郎さん、指揮はヴァイオリニストの岩渕龍太郎先生

関西においてになった節には芦屋のご自宅に弦四のお誘いを受け、何回か楽しい楽響の時をご一緒させていただき、室内楽の素晴らしさ、楽しさをお話しくださいました。晩年には「300歳カルテット」を組まれて、APAでもご活躍なさったのを覚えています。APAが生まれたのは西村会長の室内楽への深い愛情のおかげと感謝申し上げております。

●山田楊平様のこと（チェロ・故人）

山田楊平さんは、APA創設以来の長きにわたり、音楽への並々ならぬ愛情と人との繋がりの大きな力で、関西APAの数多くの例会を企画して室内楽の素晴らしい世界をたくさんの人にご教示してくださった方です。

オケ例会、室内楽の様々な楽曲の例会、オペラ、時には素晴らしいプロのソリストとの共演などなど言い尽くせないほど素晴らしい世界を体験させていただきました。例会の企画はもとより、楽譜のお世話など、そのエネルギーは音楽への並々ならぬ愛情に満ち溢れていました。山田さんのおかげで室内楽にはまって音楽の〝虜〟になった会員は数え切れないと思います。私もその一人で、山田さんに出会ってから40数年間、人生の大切な宝物、室内楽の醍醐味を存分に共に楽しませていただきました。心からお礼申し上げます。

APAメンバーで2009年ジュネーブヘイースターミサ演奏旅行。後列左から2番目が山田楊平さん、前列左端が美坂壽子さん

●大川真一郎様のこと（クラリネット・故人）

大川真一郎さんは関西の実業家で、大変素晴らしいクラリネットを吹かれるソリストでした。プロのオケと数多く共演をなさる実力で、ことのほかモーツァルトのクラリネットコンチェルトがお好きでした。

山田楊平さんが亡くなられた時も「偲ぶ会」では大川さんのクラリネット、バブアゼ先生の指揮、APAオケでモーツァルトを涙して捧げました。感動的な演奏で、生涯忘れることができません。大川さんは関西で有名なオケのオーナーもなさり、財政面などで支えて関西音楽会の力にもなっておられました。

関西APAの支部長を長く務めてくださり、APAのオケ例会などポップタウン・ホール（大川さん所有）をいつも無料で提供してくださり、多大なお力添えをAPAにしてくださいました。その上、大川さんが大きな支援をなさっておられたピアニストのプロティッチ先生（ブルガリア出身）、ヴァイオリンのバブアゼ先生（ジョージア出身）などレッスンやアンサンブル、時にはコンチェルトなど、APA会員には夢のような体験の機会を恵与してくださいました。大川さんも音楽への深い愛情、人類愛に満ち溢れた方でした。心から御礼申し上げます。

以上お三方とも故人となられ、残念で淋しい想いですが、APAのために大きな愛情をご恵与くださり、APA50年誌に記させていただきました。APAの歴史には大変大切な方々と思い、ありがとうございました。

私の音楽遍歴

高橋忠夫（福岡・ブロックフレーテ、尺八）

ＡＰＡが１９７４年に設立されてから50年を迎えました。まずはめでたい。私の会員番号７４１５６Ｂｆは１９７４年に入会した（登録楽器がブロックフレーテの）１５６人目の会員であることを意味します。よくぞ潰れもせず、また私もずっと会員であり続けられたものと思います。

私のＡＰＡにおける経歴は多くの会員の方とはかなり違っています。以下一個人としての思い、感想として受け止めていただければ幸いです。

私のクラシック音楽への入口は、中学3年の時に吹奏楽部に入ったことに始まります。「高校受験はどうした？」という声が聞こえそうですが、私が育った鹿児島県の片田舎の町には塾なんてなかったし、中学卒業とともに就職する人も多く、そういう時代だったともいえます。

高専に入学後もピッコロとフルートを担当していました。その頃からリコーダーにも興味を持ち、バロック曲などを吹いていました。社会人になってからフルートを買い、先生にもつきましたが、そこで大きな壁にぶち当たることに。ダブルタンギングができないのです。管楽器の方はご理解いただけると思いますが、ダブルタンギングができないということは演奏者として致命的です。さんざん悪戦苦闘したのち、リコーダー一本に絞ることにしました。

当時中央線例会、城南例会、田無市での例会など、リコーダーと楽譜を持っていろいろな所に出かけ、自分の未熟さは棚に上げ、思いっきり吹きまくりました。お付き合いくださった弦楽器やピアノの皆さんには深く感謝しています。

こういう時期が約5年続き、30歳を目前にして転機が訪れました。音楽面は充実していましたが仕事面でうまくいかず郷里の鹿児島に戻って再出発。また尺八に興味を持ちました。郷里では多くの人に助けられ、結婚し、何とか社会人として自立。同時に尺八を習い始め、江戸時代からの独奏曲や三曲合奏（琴、三味線、尺八の合奏）に熱中しました。リコーダーは思い出した時に吹く程度になりました。

三曲合奏で、尺八を吹く高橋忠夫さん（後列左端）

60歳の時にまた転機が訪れました。脳梗塞を患ったのです。幸い日常生活にはほとんど影響ありませんでしたが、楽器は吹けなくなりました。70歳ころからボーカロイドに興味を持ち、今もよく聞いています。これはコンピューター上で生成された歌い手が歌を歌い踊るというものですが、若い世代の作品に強く惹かれます。滝廉太郎や古賀政男に匹敵する才能が出て来ることを期待しています。

これまでの人生を振り返ってみると、楽器が演奏できることでつらい時や苦しい時を乗り越えられたと思います。また皆様には西洋音楽だけでなく、琴や尺八などの和楽器も演奏されることをお勧めしたい。両方知っていることは必ずプラスになると確信しているからです。

（クラシック音楽の合奏から離れたのに、どうしてＡＰＡ会員でいるのか）不思議に思われた方もおられると思いますが、日本の社会はタテ社会でありＡＰＡのようなヨコをつなぐ組織は絶対必要であると考えるからです。

楽器演奏はせずとも、末席に連なっていることでお役に立てれば幸いです。

APAで脳の領域が広がった

宮岡麻由子（東京・ヴィオラ、ピアノ）

設立50周年おめでとうございます。ヴィオラを弾く、宮岡です。自分の45歳という年齢がエイパでは若手になるのが驚きですが、ここは元気（すぎるくらい）なシニアの方が多く、介護業界経験者として、音楽は身も心も豊かにするのだなと強く実感しています。

まず私のエイパへの関わりを書きます。大学卒業するかしないかの頃だったと思いますが、日立のほうでやるエイパの音楽ワークショップに出ないか、と市民オケのエキストラ仲間に誘われたのが最初でした（確か当時は柏例会の武田俊男さん、お元気ですか…？）。

その後、エイパのことはまったく忘れていたのですが、大学オケ仲間のつながりで名古屋のエイパ会員と交流するうちに、入会に至りました。あの頃はアマチュアオーケストラをいくつもかけもちしていて、次々とくる本番が特別な素敵なものではなくなって、希薄な関係でつくる音楽に虚しさを感じていました。といっても、室内楽でヴィオラを弾く自信も人脈もなく、一人で参加できる室内楽グループレッスンを探して、少しずつカルテットに慣れ始めたところでした。

脳の領域が広がった宮岡さんご本人（イラストも）

それまでは限られた人としか組むことができなかった室内楽が、エイパで一転、様々な腕前や経験を持つ方とご一緒できるのに興奮しました。「いま脳の領域が広がっているな」と感じたのを覚えています。

例会に参加してびっくりしたことが大きく二つあります。まず、曲の全楽章を演奏することです。入会当時は、体力と気力を持ち合わせていなかったのと、今まで楽章抜粋で取り組むのがほとんどだったので、エイパの人たちと合わせるときに、例えば、2～3曲全楽章一気に弾くなんていうことが普通で、これはすごいなぁと思ったものです。

それと、楽器を何種類も弾く人が、たくさんいることです。今まで、ヴィオラ以外の楽器を弾くことは、ヴィオラへの裏切りだとか、そういうのは本物じゃない（書くと笑ってしまいますね）、と思い込んでいましたが、エイパには何種類もの楽器を弾ける人がゴロゴロいて、しかもどれも上手かったりするので、まぁまぁ弾けるぞと調子に乗っていた自分が恥ずかしくなったりもしました。

熱しやすく冷めやすい性格のため、入会から数年のめり込んだあと、ぷっつりと西洋音楽への憧れが消失し、エイパを離れ「和太鼓」に没頭した時期もありました。が、体力の限界と同時に、やはり室内楽でしか味わえない快感や

APA は永遠不滅です

藤田勝四郎（東京・ヴィオラ）

音楽が忘れられず、数年前にまたエイパに戻ってきました。今ではすっかりカルテットへの恐怖心もなくなり、どんな曲にもチャレンジしてみたいという意欲でいっぱいです。それもひとえに、エイパの例会幹事さんたちが、私にたくさんのメンバーと曲をアレンジしてくださったおかげです。多彩な音楽感に触れて、様々な曲を経験することができたのは貴重な財産です。

そして多種多様な人生を歩んできた人たちと、音楽という言語で共感できること。感じ合える喜び。これは奇跡なのでは?と感じるようになったのは年をとった証拠でしょうか。もちろんアンサンブルするのは楽しいことだけではなく、他人に違和感を持ったり、不快になったり、自分の技量とセンスにもうやめてしまいたい、そんな苦しみもあります。でも、音楽に惹かれ、また自然と楽器を手にしてしまう。そんな毎日を繰り返しています。

エイパで、またエイパの活動を通じて出会う人たちのおかげで私の人生は彩られています。そんな場を作ってくださった創立者の皆さま、また歴代の理事はじめ、例会幹事、事務局の皆さま、たくさんの関係者の皆さまに、この場をお借りして感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

今私が協力しているＡＰＡのデータベース（ＤＢ）について簡単に紹介します。

このＤＢは会員管理関係と請求書発行関係、それに名簿発行のサブシステムから構成されます。

請求書発行について、一定の会費を請求するシステムと異なり、ＡＰＡのＤＢは以下のような特徴があります。

①会費は全会員に同一でなく、県ごと、家族会員の数で決まり、更に新入会員は別価格が決まっている。

②請求額から減額されるものには不活動割、遠隔地域割、さらにＡＰＡ債券保有に応じた割引がある。

③入金額が請求額と一致しなかった場合には、差額が翌年の会費に加算または減算される。

ここで皆様にお願いしたいことがあります。

①お手元に届く請求額はソフトのバグ、データ入力ミス等により思っていた額と異なるかもしれません。その場合一瞬驚かれると思いますが、事務局と相談してほしいということです。

②このＤＢはＷｉｎｄｏｗｓのＰＣでマイクロソフトのＡｃｃｅｓｓというデータベースソフトを使っています。もし皆様の中にこのシステムのメンテナンスを担当してくださる方がおられれば大変嬉しく思います。

１９８０年代はＰＣ９８０１の時代で、ＡＰＡではＲＢＡＳＥというデータベースソフトを使用していました。ソフトの製作は当時の副会長佐治木さんのご主人が担当されました。

なにせＣＰＵが８０８６という16ビットのため、ソフトやデータのサイズの制約があり、永田さんをはじめとする事務処理担当者は大変苦労して運営されていました。

１９９５年にＷｉｎｄｏｗｓのＰＣが出たとき、残念ながら、ＲＢＡＳＥはＷｉｎｄｏｗｓ版にアップデートされませんでした。その状況を見ていて、私自身でＷｉｎｄｏｗｓ版での開発を引き受けることにしました。

当時私は定年近くに子会社に出向した時期、ソフト開発に従事したため、余暇に興味を持ってＡＰＡのＤＢに取り組みました。仕事として請け負うとなると、責任と義務が発生します。ソフト開発をシニアの時期に楽しみとして、スキルアップとして取り組んでいただける方に期待しています。

2024年７月のコンサートで。左から、水林彪、佐藤祥子、旦祐介の皆さんと私

私のこの仕事の取り組みを知る友人からは、「ＡＰＡのＤＢの仕事は永遠不滅だね」と冷やかされています。

室内楽を弾く楽しみ、友を作る喜びで十分お世話になってきた一人として続けてきたものです。タイトル通りＡＰＡは永遠不滅です。ＤＢ開発の仕事も永遠不滅です。

歳と共に体力、知力が衰えてきた今、できるだけ早く引き継ぎをお願いしたいと考えています。

第１回国際室内楽音楽祭が実施されたのは２０１６年の３月のことでした。私は、海外生活25年に終止符を打ち、帰国、それまでの海外での人脈を生かし、海外のアマチュア演奏家に呼びかけ、日本でＡＰＡ会員と一緒に合奏することを考えました。しかし海外在住の外国人はコンサート１週間前に来日後、短い間に２回リハーサルを行ない、本番というスケジュールであることが多く、果たしてコンサートを実施できるのか?という不安を抱きつつ、中央線例会主催で強行しましたが、結果は大成功でした。

第１回音楽祭には海外から15人の参加がありました。国別にはオランダ（５）、オーストリア（４）、ドイツ（２）、英国、米国、タスマニア（オーストラリア）、香港は１人ずつの参加で、一緒に合奏する日本人は総勢18人でした。この時から２０２４年に実施した第６回までは、小金井宮地楽器ホール小ホールと熱海起雲閣音楽サロンの２ヵ所での実施でした。第１回の２０１６年は小金井宮地楽器ホー

国際室内楽音楽祭を開催

吉田和道（東京・ヴァイオリン、

ルが3月13日、熱海起雲閣音楽サロンが3月15日の本番でしたから、中1日を挟んで移動という強行軍でした。

この時の小金井の曲目は、モーツァルト、ブラームス、ライヒャ、ドヴォルザーク、熱海はモーツァルト、ベートーヴェン、シューマン、シューベルトで、弦やピアノの四重奏曲、五重奏曲、八重奏曲が演奏されました。コンサートにかかる費用のうち一部はＡＰＡ本部からの補助金でまかなわれました。

第1回からハプニングもありました。タスマニアから来日のクラリネットのＤｉａｎａさんが途中のシンガポール空港でつまずいて腕を骨折、それでもそのまま来日。クラリネットは吹けないけれど、すべての日程を我々と共に行動しました。主催者としてはクラリネット入りの曲目を急遽変更して別の奏者を探すなど大変でした。Ｄｉａｎａさんは翌年の第2回国際室内楽音楽祭にも再来日して、音楽祭に参加しました。

2回目以降も順調に演奏会を実施しましたが、日本側の苦労は一緒に演奏するＡＰＡ日本人奏者のリハーサルスケジュールです。日本人は仕事や家庭を抱え、都合のつかない日時もあり、調整がいつも悩みの種となっています。共通語は英語ですが、英語のよくわからないＡＰＡ会員もいますので、連絡事項は2ヵ国語にするなどの手間もあります。それでも、〝Ｍｕｓｉｃ ｉｓ ｔｈｅ ｕｎｉｖｅｒｓａｌ ｌａｎｇｕａｇｅ〟（音楽は世界共通のことば）の通り、一緒に合奏すれば、共に音楽を作り、楽しい、という気持ちになります。

コロナ禍には3年間あきましたが、その間、私の病気療養などもあり、山下早代子氏が代わりに企画・運営を行なうことになり、２０２４年から音楽祭は復活。２０２５年3月には第7回国際室内楽音楽祭として、14日と20日いずれも武蔵野市のホールで13人の海外参加者、30人のＡＰＡ会員がコラボして演奏します。お楽しみに！

（編集部註：本誌4頁で紹介のサンケイ新聞の記事にあるように、ヨコのつながりで国際交流にまで発展させ、今も継続する姿は、創立者の井上明さんの夢の実現に、ほかなりません）

2018年3月29日の熱海起雲閣の中庭で記念撮影。サロンでは100名近くの観光客の前で演奏。熱海新聞の取材も。私は前列右から2人目

これからも着実に活動を継続したい

荒井 隆（神奈川・ヴァイオリン）

エイパ50周年を迎えるに当たり、前身例会の開設から45年を経ている東横線例会の歴史について、過去の資料を紐解き、遡ってみることにしました。すでに鬼籍に入っている方もおられますが、改めて歴代の幹事の情熱に敬服するとともに室内楽の演奏の場を造り、現世代に継続いただいたことに改めて感謝申し上げます。エイパの将来のメンバーが東横線例会の歴史に興味を持った際に参照できるように、エイパの公式媒体である記念誌に「記録」として投稿させていただきます。

東横線例会は、記録に残る限り、１９７９年3月25日に横浜市西区紅葉ヶ丘の横浜婦人会館（現、神奈川婦人会館）で第1回が開催されました。その時の幹事は藤田利光氏で、横浜例会を名乗っていました。その後、１９８２年6月27日の第37回例会からは横浜市旭区二俣川のスカウト会館に活動場所を移しました。活動は概ね月1回の例会と年1回の発表会でしたが、１９８３年より活動が不規則になり、１９８４～86年の前半までは当時の会報を見ても活動実績がトレースできない状況になっています。

その後、横浜地区での例会活動の活性化を目的に、秋山純氏・上尾利久氏・吉田晃氏が主体となって、現在のメインの活動拠点である大倉山記念館をベースとした例会活動を１９８６年6月7日（土）より再開し、例会名称を「東横線例会」として、月1回の活動を行なって、今日に至っています。

コロナ以前によくやっていたお茶会風景（2018年8月）

発表会については、活動再開当時は例会自主開催コンサートと大倉山記念館主催の「秋の芸術祭」参加を年1回ずつ行なっておりましたが、新生「東横線例会」として開催した第20回発表会（２００５年11月5日〈土〉大田区民プラザ小ホールで開催）以降は、当時のイベント担当幹事だった田部幹雄氏の判断で、年2回の例会自主開催の発表会を行なう体制になり、今日に至っています（現在でも年2回の発表会は、「春芸」「秋芸」と呼称されますが、これは大倉山記念館が開催していた「秋の芸術祭」に参加していたことの名残りです）。

2009年の春芸。ホルベルク組曲の一コマ

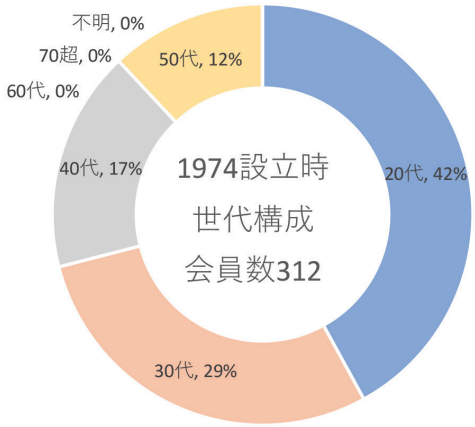
月例会の参加者数は２０１４～15年頃までは40～50名の大人数が参加していましたが、その後、首都圏で、発表会活動を中心とした例会や会員個人の演奏会主催等が活発になってきた反面、そのつど曲を持ち寄って毎回違うメンバーで気軽にアンサンブルを合わせてみるというエイパの伝統的な例会活動スタイルが好まれなくなってきていること等が影響し、最近は20名前後の参加者で推移しています。参加者は、かつては東京都区部の南寄りの地域、川崎・横浜市居住者がメインでしたが、２００８年6月の東京メトロ副都心線開通以降は、都区部の西寄り地域や西武線・東武東上線沿線居住者の参加も増えて来ています。

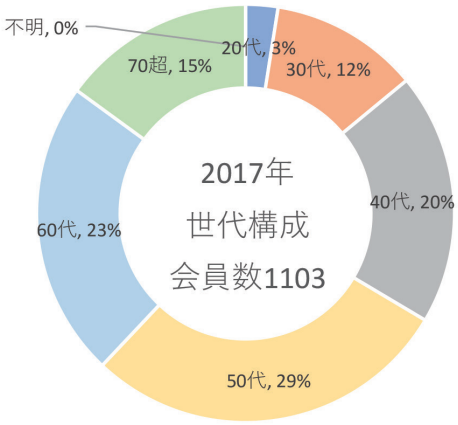
現幹事メンバーはいずれも多忙で、例会独自に派手な企画を実行する体力はありませんが、今後も着実に活動を続けて行きたいと思っています。

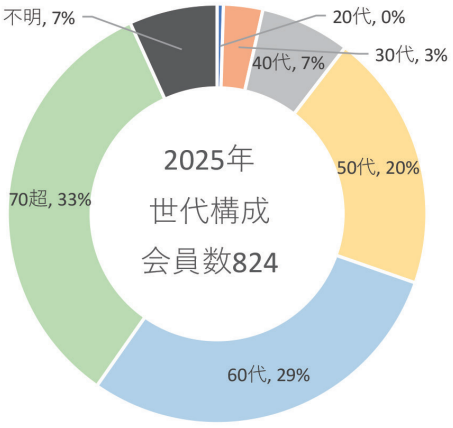
データから見るAPA

世代構成別会員数の割合

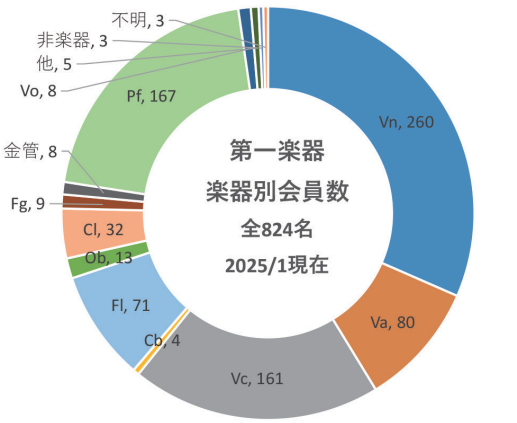
1974年設立時と43年後の2017年を比較すると、60代以上がいなかった設立時に比べ、2017年には半数を超え、さらに現在は62%を超えます。逆に20代、30代の割合は大幅に減少。APA存続のキーは若い世代の取り込みであることがよく実感できます。この世代をどうしたら巻き込めるか、APA自体の様々な場面で、継続的な魅力アップと効果的な対応策が求められています。

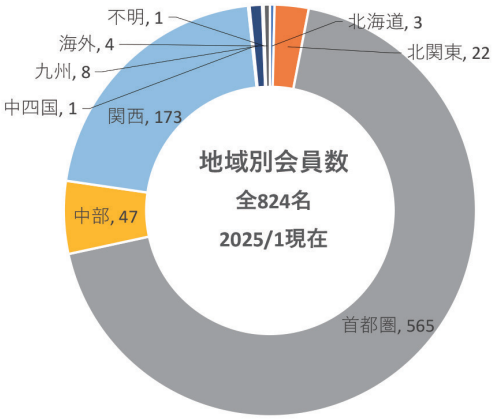






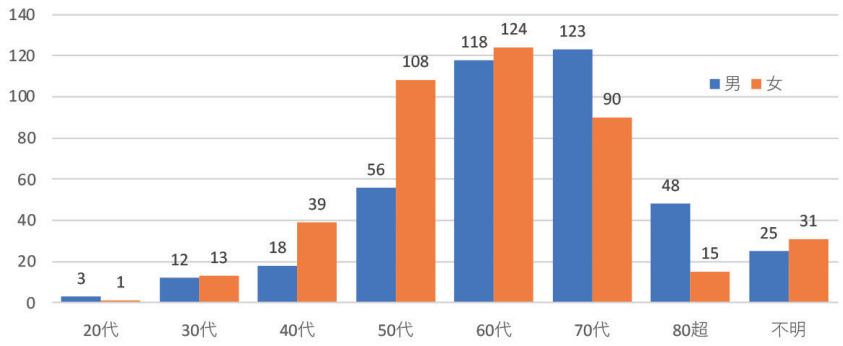
楽器別・地域別会員数





APAには、複数の楽器をこなすメンバーは多くいますが、ここでは第一楽器にこだわってのデータとなります。弦楽器を第一楽器とする率が61%。ピアノが20%。そのほかに管楽器、声楽がいて、多彩なアレンジが可能です。一方、地域別会員数を見ると、圧倒的に大都市圏に居住されている率が高く、例会活動や各種コンサートの開催数に呼応する形になっています。今後は、大都市圏ばかりでなく、地域とのさまざまな連携も模索する必要があります。

世代・性別会員数　全824名2025/1現在



直近10年間の演奏回数ランキング

事務局において、この10年間のコンサートや発表会での演奏曲の合計3374曲を作品別に地道にカウントしました。その結果をもとに、演奏回数のランキングを作成。日頃からよく演奏する有名曲の演奏回数やランキングから、APAの傾向が読み取れるでしょう。ただし首都圏でのデータであり、関西支部に関しては時間切れでカウントされていません。

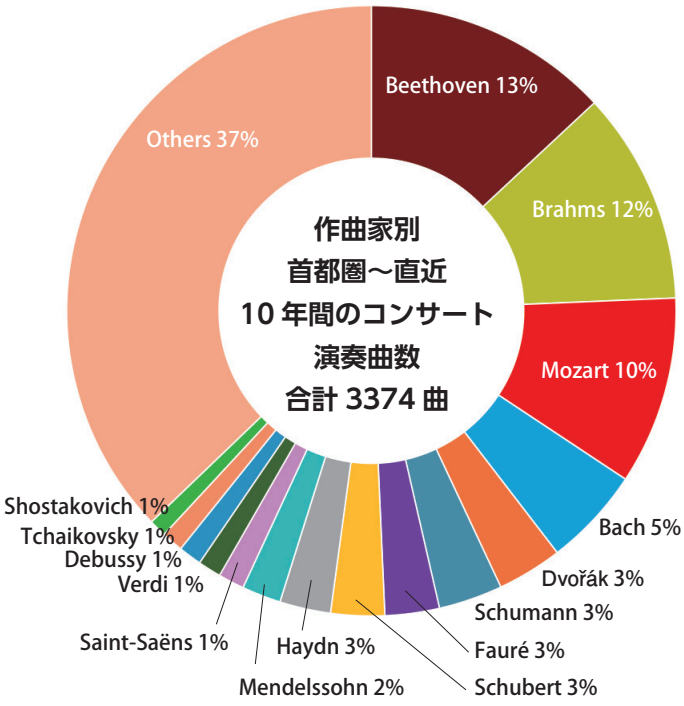
ベートーヴェンの弦楽四重奏曲は全16曲のうち12曲が上位に、以下、人気のブラームスを始め、モーツァルト、ドヴォルザーク、シューマン、フォーレ、シューベルト、ハイドン、メンデルスゾーンなど、王道の曲目がずらり。ピアノ入りの曲も多く演奏されているのは、APAのピアニストたちにとっても嬉しいところです。

その他には、APAらしく目新しい作品や珍しい曲もあり、多様性に富んでいます

首都圏直近10年間コンサート曲名ランキング

（2015/1/1～2024/12/31総曲数3374曲）

	作曲家名	曲名	回数
1	ブラームス	ピアノ三重奏曲 第1番 Op.8	30
2	シューマン	ピアノ四重奏曲 Op.47	26
2	ブラームス	クラリネット三重奏曲 Op.114	26
4	ドヴォルザーク	ピアノ五重奏曲第2番 Op.81	25
5	ブラームス	ピアノ四重奏曲 第3番 Op.60	23
6	ブラームス	ピアノ三重奏曲 第2番 Op.87	22
7	ブラームス	ヴァイオリンソナタ 第1番 Op.78「雨の歌」	21
7	フォーレ	ピアノ四重奏曲 第2番 Op.45	21
7	ブラームス	ピアノ五重奏曲 Op.34	21
10	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第1番 Op.18-1	20
11	シューマン	ピアノ五重奏曲 Op.44	19
11	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第14番 Op.131	19
11	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第3番 Op.18-3	19
11	メンデルスゾーン	ピアノ三重奏曲 第1番 Op.49	19
11	モーツァルト	ピアノ四重奏曲 第1番 K.478	19
11	ブラームス	ヴァイオリンソナタ 第3番 Op.108	19
11	ブラームス	ピアノ四重奏曲 第1番 Op.25	19
11	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第7番「ラズモフスキー1番」Op.59-1	19
19	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第10番 Op.74「ハープ」	18
20	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第9番「ラズモフスキー3番」Op.59-3	18
20	チャイコフスキー	ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出」	18
20	ブラームス	ヴァイオリンソナタ 第2番 Op.100	18
23	ブラームス	弦楽四重奏曲 第1番 Op.51-1	17
23	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第12番 Op.127	17
23	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第4番 Op.18-4	17
26	ブラームス	弦楽四重奏曲 第2番 Op.51-2	16
27	ベートーヴェン	ピアノ三重奏曲「大公」Op.97	15
27	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第2番 Op.18-2	15
27	モーツァルト	弦楽四重奏曲 第14番「春」K.387	15
27	フォーレ	ピアノ四重奏曲 第1番 Op.15	15
27	フォーレ	ピアノ三重奏曲 Op.120	15
32	シューベルト	ピアノ五重奏曲「鱒」Op.114 D667	14
32	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第5番 Op.18-5	14
32	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第8番「ラズモフスキー2番」Op.59-2	14
32	モーツァルト	クラリネット三重奏曲「ケーゲルシュタット」K.498	14
32	モーツァルト	クラリネット五重奏曲 K.581	14
32	モーツァルト	弦楽四重奏曲 第17番「狩」K.458	14
32	ブラームス	弦楽四重奏曲 第3番 Op.67	14
32	ブラームス	ピアノ四重奏曲 第2番 Op.26	14
32	フランク	(VnVaVcFl)ソナタ	14
41	ブラームス	クラリネット五重奏曲 Op.115	13
41	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第13番 Op.130	13
41	ブラームス	弦楽六重奏曲 第1番 Op.18	13
41	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第15番 Op.132	13
45	ドヴォルザーク	弦楽四重奏曲 第12番「アメリカ」Op.96	12
45	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第11番「セリオーソ」Op.95	12
45	ヴェルディ	歌劇「椿姫」よりのアリアなど	12
45	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第6番 Op.18-6	12
49	モーツァルト	弦楽四重奏曲「不協和音」K.465	11
49	モーツァルト	ピアノ四重奏曲 第2番 K.493	11
49	ブラームス	弦楽五重奏曲 第2番 Op.111	11
52	メンデルスゾーン	ピアノ三重奏曲 第2番 Op.66	10
53	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲 第16番 Op.135	9
53	シューベルト	弦楽四重奏曲「ロザムンデ」D.804	9
53	シューベルト	アルペジョーネソナタ D821	9
53	ブラームス	弦楽六重奏曲 第2番 Op.36	9
54	モーツァルト	弦楽五重奏曲 第3番 K.515	8
54	ベートーヴェン	弦楽四重奏曲「大フーガ」Op.133	8
54	モーツァルト	弦楽四重奏曲 第22番「プロシャ王第2番」K.589	8
54	モーツァルト	弦楽五重奏曲 第4番 K.516	8



なお、上の色別チャートは、デザイン面でも出色の Bärenreiter 版の表紙の色にできるだけ合わせてみました

20代、30代、40代の取り込みが必須！

1981~

1981.8.21-23 北軽井沢音楽祭（北軽井沢ミュージックホール）120名
（昭和56年）
1981.11.15 全国大会（増上寺ホール及び明徳幼稚園）228名
1981～ フルートオケ例会、華麻衣スペースコンサート
1982.5 エイパクラブ室を新宿区歌舞伎町へ移転
（昭和57年）
1982.8.20-23 志賀高原音楽祭（ヴィラ一ノ瀬）183名
1982.10-11 例会キャンペーン
1982～ 歌舞伎町披露例会（クラブ室例会）、APAコレギウム合奏団
1983.7.30-8.2 志賀高原音楽祭（ヴィラ一ノ瀬）170名
（昭和58年）
1983.10.2 全国大会（日本青年館）158名
1983～ ラヴィーヌ楽派コンサート、チェロの会（ゴーシュ）
1984.8.3-5 志賀高原音楽祭（ヴィラ一ノ瀬ほか）150名
（昭和59年）
1984.10.7 10周年全国大会（日本青年館）199名

1985~

1985.8.2-4 志賀高原音楽祭（ヴィラ一ノ瀬ほか）100名
（昭和60年）
1985.11.4 全国大会（日本青年館）147名
1986.8.9-11 河口湖音楽祭（大橋ホテル）110名
（昭和61年）
1986.8.17 岩淵龍太郎室内楽講座
1986.10.19 年次大会（日本青年館）122名
1986～ ウィークデイアンサンブル、APAサロン
1987.4.11 ゴーシュの会（林俊昭・林由香子）
（昭和62年）
1987.6.28 岩淵龍太郎室内楽講座
1987.8.8-10 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）116名
1987.11.8 ビオラの会（田口朝子）
1988.4.11 年次大会（日本青年館）122名
（昭和63年）
1988.4.11 ビオラの会（上野博孝）

1988~

1988.5.9 ゴーシュの会（雨田一孝・川内昌典）
1988.8.5-8.8 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）123名
1988.10.20 Duoハヤシレッスン（林俊昭・林由香子）
1988.11.13 年次大会（日本青年館）116名
1988～ **柏例会**、兵庫例会、阪神例会、ブランデンブルク全曲の会
1989.8.4-8.7 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）135名
（平成元年）
1989.10.1 Duoハヤシレッスン（林俊昭・林由香子）
1989.10.15 年次大会（日本青年館）111名

1999~

1回阪大オペラ：モーツァルト歌劇「フィガロの結婚」全曲（写真）

トビリシ弦楽四重奏団（Vnゲオルギ・バブアゼほか）
1999.10.9-12 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）115名
1999.11.21 APA25周年記念特別例会シリーズ　フルート例会、江戸川例会
2000.2.20 APA25周年記念年次大会（彩の国さいたま芸術劇場）180名
（平成12年）
2000.10.7-10 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）111名
2000.10.15 ゴーシュの会（林裕）
2000～ 管楽器の会、**ピアノ入り室内楽の会**
2001.2.18 年次大会（横浜みなとみらい小ホール）132名
（平成13年）
2001.8.5 阪大オペラ「こうもり」
2001.10.19-22 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）101名
2002.2.3 年次大会（横浜みなとみらい小ホール）126名
（平成14年）

2002~

2002.8.4 阪大オペラ「オペラ名曲」
2002.10.18-21 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）96名
2002～ **埼玉予約例会**
2003.2.10 年次大会（横浜みなとみらい小ホール）103名
（平成15年）
2003.8.24 阪大オペラ「椿姫」
2003.10.17-20 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）85名
2004.2.28-29 年次大会（大田文化の森）107名
（平成16年）
2004.8.8 阪大オペラ「魔笛」
2004.10.15-18 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）100名
2004～ ピアチェーレの会、**ヴァイオリンの会、京都室内楽コンサート、声楽とピアノの会、京阪例会クラシックコンサート、西北サロン、弦楽四重奏の会**
2005.4.3 年次大会（横浜みなとみらい小ホール）123名
（平成17年）
2005.8.7 阪大オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」
2005.10.14-17 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）89名
2005～ プレリュードと平均律の会、名古屋室内楽を楽しむ会
2006.2.19 年次大会（横浜みなとみらい小ホール）94名
（平成18年）
2006.7.30 阪大オペラ「ドンジョバンニ」
2006.10.13-16 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）94名
2006～ 堺ソロ・デュオ例会

2007~

2007.2.18 年次大会（葛飾シンフォニーヒルズアイリスホール）107名
（平成19年）
2007.8.19 阪大オペラ「フィガロの結婚」
2007.10.12-15 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）95名
2007～ **APA-bbsコンサート**、蟠龍寺例会（入門例会）、APA大倉山コンサート
2008.2.16 年次大会（葛飾シンフォニーヒルズアイリスホール）95名
（平成20年）
2008.8.31 阪大オペラ「メリーウイドウ」
2008.10.17-20 特定非営利活動法人（NPO）日本アマチュア演奏家協会に
2008.10.17-20 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）103名
2008～ 蓼科例会、bbsピアチェーレ・アドホック、APAクラブ室
2009.2.15 年次大会（葛飾シンフォニーヒルズアイリスホール）97名
（平成21年）
2009.7.5 ゴーシュの会（池村佳子）
2009.10.4 阪大オペラ「カルメン」
2009.10.16-19 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）85名
2009～ ピアノアンサンブル＆声楽の会
2010.1.31 35周年年次大会（彩の国さいたま芸術劇場）130名
（平成22年）
2010.7.18 ゴーシュの会（寺田達郎）
2010.8.29 阪大オペラ「ジプシー男爵＆こうもり」

APA 50年の歴史

APA50 年の歴史は、そのままアマチュア奏者たちの横のつながり、広がりを雄弁に物語ります。ここでは、その流れを紹介します。

※例会の太字表記は、現在も活動中です。

■ APA の動き ■例会 ■関西支部 ■全国大会など ■合宿 音楽祭 ■レクチャー、コンサート

1973~

1973.7.28 アマチュア奏者同士を結ぶ幅広い組織を検討

1973.7.28 創設者井上明の次女、千華さんご逝去。亡き子の記念に組織づくりを決意

1974.1.16 (昭和 49 年) APA 設立準備会東京連絡会を結成

1974.3.17 「音楽の友」の広告掲載

1974.6.15 APA 設立準備会東京連絡会正式発足・設立披露パーティ開催（日本都市センター別館会議室・写真）

1974.9 中央線沿線例会、城西地区例会、バッハ・アンサンブル、東北地区例会

1974.12.1 関西支部設立総会（梅田・如水クラブ）

設立披露パーティ（毎日新聞社提供）

1975~

1975.3.21 (昭和 50 年) 全国大会（日本都市センター）270 名

1975 ~ **西武線**（旧西武線沿線）**例会**、京王線例会、千葉例会、都心平日夜例会、駒込例会、**フルートを楽しむ会**

1976.3.6-7 (昭和 51 年) 全国大会（国立オリンピック記念青少年総合センター）230 名

1976 ~ 城南例会、ピアノと遊ぶ会、吉祥寺で遊ぶ会、**CD グレード例会**（旧グレード CD の方のための会）

1977.4.29-30 (昭和 52 年) 全国大会（全国労音会館）383 名

1977.7 クラブ室（合奏室兼事務室）開設：大久保製餡会館ビル

1977.7.29-31 飯山合宿（音楽祭の始まり）42 名

1977 ~ クラブ室例会、**湘南例会**、リコーダーの例会、柏例会、ギターを含む音楽・合奏会

1978~

1978.7.29-8.1 (昭和 53 年) 西武・多摩例会合同合宿（軽井沢セミナーハウス）35 名

1978.9.17 全国大会（九段会館）243 名／APA 正式発足

1978 ~ ２台ピアノの会、クラブ室例会、ひばりヶ丘室内楽会、新宿例会、船橋例会、密かにカルテットを楽しむ会、新杵サロンコンサート

1979.7.29-8.1 (昭和 54 年) 合宿（軽井沢セミナーハウス）83 名

1979 ~ **木曜会**（旧平日 DE 例会）、**さいたま**（旧埼玉）**例会**、**東横線**（旧横浜）**例会**、小田急沿線例会、**田園都市**（旧田園都市沿線）**例会**、船橋例会、オーケストラ例会、室内楽例会

1980.9.21-23 (昭和 55 年) 合宿（ＹＭＣＡ野辺山高原センター）90 名

1980.10.10 全国大会（九段会館）219 名

1980 ~ カルテットの会、江戸川例会、上野例会、**チェロの会**、ピアノ例会

1990~

1989 ~ ウィークディストリングス、管楽器の会、ピアノと室内楽忘年会

1990.2.9 (平成 2 年) 林俊昭レッスン

1990. 6.17 ゴーシュの会（大木愛一）

1990.7.20-23 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）110 名

1990.10.21 年次大会（日本青年館）109 名

1990 ~ 会員数 934 名に減少 ピアノサロン、京阪例会

1991.1.8 (平成 3 年) ゴーシュの会（長谷川陽子）

1991.7.26-29 河口湖音楽祭にて日本室内楽振興財団から初の助成。東京ベートーヴェンカルテットをゲスト招聘 140 名

1991.11.24 年次大会（日本青年館）110 名

1991 ~ 我孫子例会

1992~

1992.5.30 (平成 4 年) S. ブロティッチさんとバッハレッスン

1992.7.24-27 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）108 名

1992.11.22 年次大会（日本青年館）119 名

1992 ~ 空港アンサンブル、高槻例会、**京都日曜例会**、**京都火曜例会**

1993.7.11 ゴーシュの会（佐藤光）

1993.7.30-8.2 (平成 5 年) 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）115 名

1993.11.7 年次大会（日本青年館）110 名

1993 ~ 室内楽の会、阪奈例会

1994.3 (平成 6 年) クラブ室を会員有志のエイパクラブ株式会社で買取り「APA 西村記念クラブ室」と改称

1994.7.29-8.1 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）112 名

1994.11.6 設立 20 周年記念年次大会（日本青年館）95 名

1994 ~ **火曜会**

1995.7.28-31 (平成 7 年) 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）110 名

1995 ~ ベーゼンドルファー室内楽コンサート

1996~

1996.2.10 (平成 8 年) 年次大会（日本青年館）117 名

1996.10.10-13 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）94 名

1996 ~ **新ピアノサロン**、西神戸室内楽を愉しむ会

1997.2.16 (平成 9 年) 年次大会（日本青年館）96 名

1997.7 APA 公式サイトを創設

1997.10.10-13 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）107 名

1997 ~ 早大理工コンサート、**エイパ室内楽コンサート**、**室内楽全曲の会**

1998.2.8 (平成 10 年) 年次大会（彩の国さいたま芸術劇場）110 名 APA 会員数 1180 名、関西支部会員数 400 名に

1998.3.29 S. ブロティッチさんとモーツァルトレッスン

1998.3.29 ゴーシュの会（峰本更）

1998 ~ **ビオラの会**

1999.2.20 (平成 11 年) 年次大会（彩の国さいたま芸術劇場）130 名

1999.5.16 ゴーシュの会（堤剛）

1999.8.1 APA25 周年記念特別例会シリーズ・関西支部第

詳しい内容は
こちらから

APA 50年の歴史

2010~

2010.10.12-15 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）100名
2010.10 認定NPO法人資格取得
2010 ~ たまかい、平日弦四の会
2011.2.10-11（平成23年） 年次大会（葛飾シンフォニーヒルズアイリスホール）132名
2011.8.28 阪大オペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ&椿姫」
2011.10.14-17 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）95名
2011.10.30 メサイアハイライト
2011 ~ **新宿御苑自由例会、室内楽大好き例会**
2012.2.5 ゴーシュの会（池村佳子）
2012.2.18-19（平成24年） 年次大会（葛飾シンフォニーヒルズアイリスホール）155名
2012.9.2 阪大オペラ「アイーダハイライト」
2012.10.12-15 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）74名
2012 ~ かつしか例会
2013.2.16-17（平成25年） 年次大会（葛飾シンフォニーヒルズアイリスホール）148名
2013.10.18-21 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）65名

2014~

2013.11.10 河野文昭先生とアンサンブル
2013 ~ **中央線例会**
2014.2.16（平成26年） 年次大会（彩の国さいたま芸術劇場）135名
2014.10.17-20 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）77名
2014 ~ **ピアノデュオの会（旧2台ピアノの会）、自由合奏の会**
2015.2.22（平成27年） 年次大会（彩の国さいたま芸術劇場）161名
2015.10.16-19 河口湖音楽祭（サニーデビレッジ）72名
2015 ~ 千葉例会、40周年関西支部総会
2016.2.21（平成28年） 年次大会（昭和音楽大学）178名
2016.3.13, 15 **第1回国際室内楽音楽祭**（小金井+熱海起雲閣）
2016.10.8 レクチャーコンサート #1
2016.12.10 レクチャーコンサート #2
2016 ~ **宇都宮例会、木曜倶楽部**
2017.3.5（平成29年） 年次大会（昭和音楽大学）155名
2017.4.23 レクチャーコンサート #3
2017.8.27 レクチャーコンサート #4
2017.9 山田楊平さんを偲ぶ会

2019~

2018.2.25（平成30年） 年次大会（昭和音楽大学）141名
2018.5.12 レクチャーコンサート #5
2018.9.2 レクチャーコンサート #6
2018 ~ ぷち曲楽しむ会
2019.2.24（令和元年） 分散年次大会（西宮フェリーチェサロン）28名
2019.3.9-10 分散年次大会（大倉山記念館、豊洲シビックセンター・かつしかシンフォニーヒルズほか）129名
2019.3.16 分散年次大会（名古屋スタジオ・フィオリーレ）35名
2019.3.16 レクチャーコンサート #7
2019 ~ **チェロアンサンブル例会、秋のチェロの会**
2020 ~ 新型コロナウイルス猛威、リモートアンサンブルに挑戦
認定NPO法人再取得
神戸ソロ・デュオの会、女性作曲家の会

2020~

2020.10.17（令和2年） ベートーヴェン生誕250年コンサート #2(かなっくホール)
2020.12.12 ベートーヴェン生誕250年コンサート #3(ミューザ川崎)
2021.10.17（令和3年 コンサート #1(ひまわりの郷)

＃1はコロナ禍のため、開催が何度も延期された

2021 ~ **中央線例会（再開）**
2022.1.30（令和4年） ピアノ入り室内楽公開レッスン
2022.5.28 サン=サーンス没後100周年コンサート（五反田文化センター）
2022.4 初のクラウドファンディングを達成し、室内楽交流サロン事業を開始

2022~

2022.6.10 Vn小林朋子先生と交流サロン
2022.8.19 Va大島路子先生と交流サロン
2022.9.9 Vc田崎瑞博先生と交流サロン
2022.9.23-25 掛川合宿（つま恋リゾート）52名

2015年以来、7年ぶりに開催された合宿（2022年）

2022.10.22 Vn梅原真希子先生と交流サロン
2022.11.11 Vn若松夏美先生と交流サロン
2022.12.19 Vc古川展生先生と交流サロン
2022 ~ **バロックの会**
2023.1.27（令和5年） Va百武由紀先生と交流サロン
2023.2.25 Vc大友肇先生と交流サロン
2023.3.9 Vc荒井結先生と交流サロン
2023.9.23-25 掛川合宿（つま恋リゾート）68名

2023~

2023 ~ **新かつしか例会、弦楽合奏の会、京都室内楽サロン**
2023.12.16 弦楽四重奏の会が、第11回**ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏**を開催
2024.4（令和6年） 2024年度事業としてクラウドファンディングを達成
2024.5 新ロゴを作成
2024.5.12 Va柳瀬省太先生と交流サロン
2024.6.16 Vc西谷牧人先生と交流サロン
2024.7.14 Vn桐山建志先生と交流サロン
2024.8.10 Vn川原千真先生と交流サロン
2024.9.23-25 掛川合宿（つま恋リゾート）72名
2024.9.29 Vc高木慶太先生と交流サロン
2024.10.18 Pf今井彩子先生と交流サロン
2024.11.30 Vn双紙正哉先生と交流サロン
2025.1.18（令和6年） Vc藤森亮一先生と交流サロン
2025.2.23 Vn小森谷巧先生と交流サロン
2025.2 ~ プロ演奏家と室内楽合奏でプレイ・イン企画スタート
2025.3.1 APA創立50周年記念コンサート&祝賀会（品川健康センター7Fホール）
2025.3.23 Va村上淳一郎先生と交流サロン

APAが招聘したプロの演奏家

日本の音楽界を担う重鎮たちをはじめ、新進気鋭の若手に至るまで、50 年間に招聘した実績を紹介します。
アマチュアの底力とそれに呼応することを心底喜んだプロ奏者たちの心意気が感じられます。※カルテットの楽器名は省略

【1975 年】
Va 浅妻文樹、Vc 黒沼敏夫、Pf 永富和子、Fl 吉田雅夫、Cd 渡辺暁雄

【1976 年】
Cp 芥川也寸志、別宮貞雄、服部公一、Cd 岩城宏之、早川正昭、浅妻文樹、Vc 黒沼俊夫、Fl 吉田雅夫、峰岸壮一、Ob 鈴木清三、Pf 永富和子、N 響室内楽団（Vn 田中千香士、武藤伸二、Va 大久保淑人、Vc 堀了介、Cl 浜中浩一）、桐五重奏団（Pf 弘中孝、Vn 久保陽子、恵藤久美子、Va 店村真積、Vc 藤原真理）

【1977 年】
Pf 小林仁、Cd 山田一雄、浅妻文樹、伴有雄、Vn 岩淵龍太郎、Va 奥邦夫、日フィルメンバー

【1979 年】
Cp 高木東六、Vn 梅津南美子、Vc 青木十良、松波恵子、Pf 永富和子、Cd 星出豊

【1980 年】
Vn 青木明彦、梅津南美子、篠崎功子、Vc 青木十良、松波恵子、Fl 吉田雅夫、Cl 松代晃明、Pf 霧生トシ子、田村宏、Cp 助川敏彌

【1981 年】
Cd 宇宿允人、Cp 助川敏彌、Pf 安藤仁一郎、Fl 吉田雅夫、久合田緑弦楽四重奏団（久合田緑、鈴木星彦、生沼晴嗣、藤田隆雄）、Cd 家田厚志

【1982 年】
Cd 山岡重信

【1983 年】
Cd 家田厚志、服部正、Vn 久合田緑、蒲生克郷、Va 生沼晴嗣

【1984 年】
Cd 家田厚志、日比野愛次、Vn 青木明彦、田代美恵子、久合田緑、蒲生克郷、堂阪俊子、Va 生沼晴嗣、岩橋玲子、Vc 土肥敬、奈切敏郎、藤田隆雄、村瀬忠文、Fl 佐々木 真、Cl 松代晃明、Pf 雁部一浩、菊池百合子、霧生トシ子、永富和子、Cp 助川敏彌

【1985 年】
Cd 本名徹二

【1986 年】
Vn 岩淵龍太郎

【1987 年】
Vc 菊地俊一、Cd 奥田道昭、Vn 岩淵龍太郎、Vc 林俊昭、Pf 林由香子、Va 田口朝子

【1988 年】
Va 上野博孝、Vc 林俊昭、Pf 林由香子

【1989 年】
Cd 久保田洋、Vc 林俊昭、Pf 林由香子

【1990 年】
Vn 岩淵龍太郎、Cd HJ.Kauffmann 、Vc 林俊昭、Vc 大木愛一

【1991 年】
東京ベートーヴェン・カルテット（堂阪敏子、岡本雅子、藤牧久美子、奈切敏郎）、Vn 久合田緑、Vc 長谷川陽子

【1992 年】
久合田緑弦楽四重奏団（久合田緑、小宮直、生沼晴嗣、菊地知也）、Vn 日高毅、Va 生沼晴嗣、大野かおる、Pf ブロティッチ

【1993 年】
Pf 弘中孝、Vn 篠崎 功子、Vc 堀了介、Vn 久合田緑、Va 磯良男、Vc 佐藤光

【1994 年】
イソ弦楽四重奏団（磯恒男、山中光、磯良男、黒川正三）、Cl 松代晃明、Pf 霧生トシコ

【1995 年】
Pf 岩崎淑、Vn 久合田緑、Vc 北本秀樹、Cd 中島良能

【1996 年】
Pf 弘中孝、Vn 久保陽子、Va 店村真積、Vc 毛利伯郎、Vn 宮本恵、Fl 佐々木真

【1997 年】
SAWA QUARTET（澤和樹、大関博明、市坪俊彦、林俊昭）、Vn 千葉純子、Vc 山本裕康、Fl 中山早苗

【1998 年】
Pf 岩崎淑、Vn 千葉純子、Va 松実健太、Vc 山本裕康、Fl 中山早苗、ゼクステット 魅生瑞（Pf 大滝良江、Fl 青木美咲、Ob 富田和子、Cl 山本靖子、Hr 阪本正彦、Fg 大滝雄久）、Pf ブロティッチ、Vc 峰本更

【1999 年】
Pf 諸田由里子、Vn 山本友重、Vc 山本裕康、アンサブル・アルゴス（友田啓明、世川治子、百武由紀、平田昌平）、Vc 堤剛、Cd 布垈、トビリシ弦楽四重奏団（Vn ゲオルギ・バブアゼほか）、Fl 佐々木真、Vn 齊藤和久

【2000 年】
Vn 久合田緑、Vc 林俊昭、Pf 林由香子、Cl 高橋知己、YAMATO 弦楽四重奏団（浜野考史、石田泰尚、榎戸崇浩、坂田宏彰）、Vc 林裕

【2001 年】
アンサンブル・シンポシオン（桐山建志、髙橋真二、諸岡涼子、諸岡範澄、尾崎温子）、Vc 菅野博文 、Vn 早稲田桜子、Pf 早稲田真理、Cd 河崎聡

【2002 年】
古典四重奏団（川原千真、花崎淳生、三輪真樹、田崎瑞博）、アンサンブル・ヴェガ（佐分利恭子、水鳥路、川中子紀子、三森未来子）、Cd 河崎聡

【2003 年】
Vn 松原 勝也、Vc 山崎 伸子、Pf 野平一郎、クァルテット・エクセルシオ（西野ゆか、山田百子、吉田有紀子、大友肇）、Cd 河崎聡

【2004 年】
エルデーディ弦楽四重奏団（蒲生克郷、花崎淳生、桐山建志、花崎薫）、Opus1 メンバー（Vn 大谷玲子、Va 安藤裕子、Vc 林裕）、Hr 守山 光三、阿部麿、Cd ゲオルギ・バブアゼ

【2005 年】
Vn 松原 勝也ほか、BSC クァルテット（Vn 七澤清隆、七澤裕子、Va 坪田亮子、Cb 毛利恭三）、Vc 森澤 泰、Cd ゲオルギ・バブアゼ

【2006 年】
クァルテット・エクセルシオ（西野ゆか、山田百子、吉田有紀子、大友肇）、エラン弦楽四重奏団（福留史紘、伊東祐樹、松井直之、大谷雄一）、Fg 馬込 勇、Cd ゲオルギ・バブアゼ

【2007 年】
新アドニス弦楽四重奏団（山中 光、手島志保、小野聡、平野千種）、オブリオンカルテット（木村恭子、深谷まり、木村恵子、間瀬利雄）、Hr 阿部麿、Cd ゲオルギ・バブアゼ

【2008 年】
クワトロ・ピアチェーリ（大谷康子、斉藤真知亜、百武由紀、苅田雅治）、Vn 岡山潔、Va 大野かおる、Vc 河野文昭、ザ・芸者ストリング・クワルテット（矢野晴子、岩戸有紀子、大沼幸江、矢野晶子）、Cd ゲオルギ・バブアゼ

【2009 年】
クライネス・コンツェルトハウス（三戸素子、藤村政義、二宮隆行、小澤洋介）、昴 21 弦楽四重奏団メンバー（Vn 三又治彦、Va 御法川雄矢、Vc 玉川克）、Ob 鷹栖美恵子、Cd ゲオルギ・バブアゼ

【2010 年】
ジャパン・ストリング・カルテット（久保陽子、久合田緑、菅沼準二、岩崎洸）、Vn 物集女純子、Va 大島路子、Vc 森澤泰、Fg 鎌田比呂美、Vc 池村佳子、Vc 寺田達郎、Cd ゲオルギ・バブアゼ

【2011 年】
クライネス・コンツエルトハウス（三戸素子、萩原淑子、二宮隆行、小澤洋介）、WAO 弦楽四重奏団（上保朋子、志村知里、生沼晴嗣、林一公）Cd 中村貴志

【2012 年】
クァルテット・エクセルシオ（西野ゆか、山田百子、吉田有紀子、大友肇）、Quartet ATOM（平光真彌、新谷歌、吉内紫、山際奈津香）、Vc 池村佳子、Cd ゲオルギ・バブアゼ

【2013 年】
岡山潔弦楽四重奏団（岡山潔、服部芳子、佐々木亮、（代）花崎薫）クァルテット・ヒムヌス（小林朋子、山本翔平、松井直之、高木慶太）、Vc 河野文昭

【2014 年】
クワトロ・ピアチェーリ（大谷康子、斉藤真知亜、百武由紀、（代）銅銀久弥）、WAO 弦楽四重奏団（上保朋子、志村知里、生沼晴嗣、林一公）

【2015 年】
ジャパン・ストリング・カルテット（久保陽子、久合田緑、菅沼準二、岩崎洸）、Vn 西野ゆか、Va 安藤裕子、Hr 阿部麿

【2016 年】
Vn ジェラール・プーレ、Vc 菅野博文、Pf 川島余里、Va 松実健太、講師：幸松肇

【2017 年】
Vn 小森谷巧、Vc 古川展生、Pf 三谷温、講師：田崎瑞博

【2018 年】
Vn 小森谷巧、Va 松実健太、Vc 古川展生、Pf 三谷温、Vn 佐藤まどか、Va 大島路子、講師：田崎瑞博

【2019 年】
クァルテット奥志賀（会田莉凡、小川響子、石田紗樹、黒川実咲）、Vn 梅原真希子、講師：藤本一子

【2020 年】
クァルテット・エクセルシオ（西野ゆか、北見春菜、吉田有紀子、大友肇）

【2021 年】
クァルテット・ヒムヌス（小林朋子、山本翔平、松井直之、高木慶太）

【2022 年】
Pf 横山美里、Vn 小林朋子、Va 大島路子、Vc 田崎瑞博、Vn 梅原真希子、Vn 若松夏美、Vc 古川展生

【2023 年】
Va 百武由紀、Vc 大友肇、Vn 西野ゆか、Vn 物集女純子、Va 安藤裕子、Vc 羽川真介、Pf 横山美里、Va 吉田有紀子、Vn 戸原直

【2024 年】
Vn 伊藤亮太郎、Vc 笹沼樹、Vc 荒井結、Va 柳瀬省太、Vc 西谷牧人、Vn 桐山建志、Vn 川原千真、Vc 高木慶太、Pf 今井彩子、Vn 双紙正哉

【2025 年】
Vc 藤森亮一、Vn 小森谷巧、Va 村上準一郎、Pf 横山美里、Vn 三戸素子

未来の仲間たちへ

2025 年春、APA 理事会メンバーたち全員（理事 21 名、監事 2 名）から未来の仲間たちへのメッセージです。
APA への門戸はいつも開かれています。室内楽の扉をノックしてみませんか？
出会いがあり、学びがあり、高揚感や達成感も時々あります。なかなか楽しいですよ！
QR コードから、APA の世界を覗いてみてください。

伊藤　周（Vn, Pf）
アマチュアが友だち同士で音楽を演奏して楽しむ。これぞ室内楽。私たちと一緒に音楽を楽しみましょう。室内楽は名曲の宝庫、一生かかっても演奏し尽くせない名曲の山が待っています。

臼井博昭（Vc）
オーケストラや 1 人でも楽器演奏は楽しめますが、せっかく楽器を弾けるなら室内楽をしないのはもったいないです。エイパなら室内楽の魅力的で奥深い世界を旅する仲間がたくさん。あなたの参加をお待ちしています。

奥村早苗（Pf, Cem, Fl）
室内楽デビューは、合宿でのモーツァルトピアノ四重奏曲。自己紹介は全然覚えていない。覚えているのは初めての私に合わせたゆっくりなテンポとみんなの音が私に寄り添ってくれる感覚。合奏は相手に寄り添えば音が響き合う仕掛けになっているんだなぁ。

小野弘達（Vn）
室内楽と共にある人生は、いい人生だ。「室内楽を究める＝人生を究める」なのかもしれない。「音楽を通じて、かけがえのない体験を共有できる場であり続ける」という想いが、APA の根本精神である。

小松﨑倫子（Vn）
APA は、全国レベルで室内楽の楽しさを味わうことのできる唯一無二の団体です。 皆様との新たな出会い、そして一緒にアンサンブルを楽しむことを心待ちにしております。

小森史朗（Vn）
仕事、出身校、ご近所、SNS、友人では得られない多様な背景や価値観を持った人と室内楽を通じて、つながってみませんか。気の合った仲間と演奏したり、旅先で合奏したり、美味しいもの食べたり。あなたの人生を豊かにする入口はここにあります。

新 巳喜男（Vn, Va, Vc）
「出会い系室内楽」の醍醐味にはまって 18 年。無数の名曲と毎回闘いながら、メンバーと作り上げるワクワク感や本番での緊張は、他で味わえない愉悦の時間です。海外との「つながり」も人生を豊かにします。味わってみませんか？

高松恭子（Vn）
楽器の練習は孤独なものですが、だからこそ演奏で仲間と共に一つの曲を作り上げていくことに喜びを感じられます。音楽を通してたくさんの仲間にも出会えます。今こそ勇気を出して室内楽の世界へ一歩踏み出しましょう。

西田克彦（Hr）
APA にはアマチュア演奏家が趣味を同じくする演奏家と 楽しめる情報がたくさん。 いつでも仲間を探して楽しむ機会を作れます。HP の情報からご自分の希望にあった仲間とアンサンブルしてみましょう。きっと音楽生活が充実したものになりますよ。

塗木由香（Fl）
APA には強みがあります。弦・管のほかピアニストや声楽家もいる全国組織で、室内楽フェチが大勢いてあなたを導きます。ヤル気さえあれば異種格闘技戦の室内楽も楽しめます。気の合う音楽仲間と未来の APA を楽しい場所にするのはあなたの力です！

濱田和博（Hr, Vc）
50 年の歴史と情熱を受け継ぎ、共にアンサンブルの喜びを奏でよう！アマオケやブラスで演奏するだけが楽しみではありません。少人数の室内楽で、ともに音楽を創りあげる感動を味わいましょう！

増田　篤（Vc）
気がつけば 50 年、APA は音楽好きが集まっては弾き、語らい、時に暴走しながら歩んできた。上手い下手よりも「やってみよう」の精神が大事。未来の仲間たちへ——楽器があれば大歓迎。一緒に音楽で遊びませんか？

守山算哉（Vn）
室内楽の作品に宿る霊魂を受け継ぐすべての人たちへ
生が集まり、聖霊が顔を出し、命が再現されるステージ
プレイヤーとして共に令和に実現しよう。

油谷伸一（Vn, Cd）
室内楽を通して得られる、自分が曲を作り上げているという実感、とりわけ作曲者の想い、意図した狙いが一緒に合わせるメンバーと共有できた時の歓びははかり知れません。APA の人々は、新しいメンバーを期待しています。

山下早代子（Vn）
室内楽ではすべてのパートがソリスト。オケではコンマスだけ、でも室内楽は一人ひとりがソリスト。無理？　いいえ、APA では多くの例会が室内楽初心者を歓迎します。さあ、あなたもソリストの醍醐味を味わいましょう！

APA 入会案内

室内楽で、つながる。

エ イ パ
Amateur Music
Players'
Association Japan

新しい室内楽の楽しみを、さらに模索します

APA が設立 50 周年を迎えることができましたのも、室内楽を愛好する会員皆さまの情熱と活発な例会活動に貢献くださる例会幹事の皆様、いつもご支援くださるプロ演奏家の皆様や賛助会員の皆様のおかげと、深く御礼申し上げます。

さて、50 年と言っても、設立から 2000 年までの 25 年とその後の 25 年では、インターネットの普及で、大きく変化いたしました。入手が困難な楽譜もネットで注文でき、サイトからダウンロードした楽譜は、タブレットなどの端末で読める時代になりました。このように、気軽に室内楽を始められる環境が整って行くのですから、室内楽の輪が広がることを期待しますが、クラシックの愛好家が減少しているのは世界的傾向のようです。

若手が入らないのは不安材料ではありますが、人生 100 年時代が到来し、APA も長寿で合奏を楽しまれている方が大勢いらっしゃいます。経験豊かなその方々に導かれて APA が続いてきたことに、私たちは感謝しなければなりません。戦前生まれの創立メンバーの方々は、若き頃、室内楽の相手探しに苦労されたそうです。楽器を持った人を駅で見かけたら声をかけ、知人の知人の紹介などで仲間を増やし、合奏場所を提供し、その中からプロ演奏家も誕生していきます。

2006 年 APA 河口湖音楽祭のゲスト「エラン弦楽四重奏団」の 1Vn 福留史紘さんは、まさにこの寄せ集めの中から、のちにプロになった先生に師事されていたことがわかり、その場が大いに盛り上がりました。この時私は、室内楽愛好家の先駆者の思いが次につながっていることに感激いたしました。

室内楽は、お互いの音や呼吸に耳を澄ませるように、ごくごく近い距離で合奏します。初めて出会った人でも、プロ演奏家と一緒に合奏しても同じスタイルです。この親密さの中で、お互いの人間性に触れ、音楽性に影響を受け、自分の演奏の力にしていく過程は、豊かで楽しいものです。楽器演奏は個人的な楽しみでありながら、室内楽は他者にも影響を与えるならば、コロナ禍を経験した現代では、この中に入っていくことに臆病になるのかもしれません。APA が成し遂げて来た成果は、この記念誌で紹介した通りですし、偉大なる先駆者たちに感謝いたしますが、これからは、初めての人と合奏するハードルを低くして、コミュニケーションの不安も吹き飛ぶ室内楽の楽しみ方を模索したいと思います。

3 年前から取り組んでいるクラウドファンディングは、室内楽を楽しむこと、それを普及させることに活用させていただいています。さらに日本中の音楽団体と連携した音楽活動も室内楽の輪を広めるために必要と言えるでしょう。今後とも皆様の一層のご支援ご協力を賜りますようにお願い申し上げます。

日本アマチュア演奏家協会理事長
奥村早苗

有馬善一（Vn, Va, Vc, Vdg）
一人ひとりの奏でる音が合わさって、ひとつの音楽の響きとなる。それが室内楽です。弾きながら相手の音を聴くこと、ダンスをするように音の会話を楽しむこと。それが室内楽の醍醐味です。一緒にやってみませんか。

石関祐子（Pf）
数人の小さな規模で互いの奏者の音を近い距離で聴き合いながら演奏する室内楽は、とても親密な合奏の形。自分がその一員として作品を演奏する喜びは格別です。その魅力をぜひ私たちの仲間に加わって一緒に体験しましょう。

梶岡　肇（Pf）
面白そうな例会があれば覗いてみてください。さらに出演者に声をかけてみてください。きっと新たな音楽の世界が広がることでしょう。

桑名尚子（Vn, Va, Vc）
オケに比べ今ひとつ知名度の劣る室内楽ですが、かなり奥が深いです。室内楽をもっと身近にしたい！新たな奏者を迎え、共に学び、演奏し、つながることで、室内楽の未来はもっと豊かになります。室内楽の輪を拡げよう。

田中光利（Cd, Pf）
私は APA で自分の活躍の場を見つけました。APA はものすごく弾ける方もいますが、私のような控えめな実力でも活躍できることがたくさんある多様性のある団体です。是非皆さんも発見してみてください。

永田雅夫（Vc）
31 歳で創始者井上明さんと APA を始めて 50 年、事務局・会報発行・各種本部イベントの主催・ゲスト探しに走り続けて今 81 歳。まだ元気ではありますが、そろそろ感覚の新鮮な方々にバトンをお渡ししたいです。

松本めぐみ（Vn）
～あなたの音色が未来を創る鍵になる～
仲間と共に音楽でステキな時間と空間を創りませんか？APA はあなたの創造性を待っています。新しい出会いでこれからの豊かな世界を一緒に築いていきましょう。

宮岡麻由子（Va, Pf）
会員ネットワークが全国に充実していることが APA の強みで、音楽の肝を心得ているベテランもいれば、鮮やかな感動で満ち満ちている初心者もいます。今まで得られなかった「出会い」が、人生をより豊かに彩ることをお約束します。

発行：2025 年 3 月 1 日
制作：50 周年記念誌編集委員会
新 巳喜男・永田雅夫・米倉敦子・桑名尚子

わたしの出す音が
あなたの音と立体的に絡み合う。
その感覚は、たまらない。

それはまるでお互いの
自己紹介のよう。

様々な人々との出会いは、
私たちの人生を彩り、豊かにしてくれる。

室内楽はきっと、そんなつながりを深める入り口となる。

さあ、新しい世界とつながろう。

室内楽で、つながる。

APA 50th エイパ
Amateur Music Players' Association Japan

2025年3月1日発行
NPO日本アマチュア演奏家協会
50周年記念誌編集委員会
〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町2-6-16
パレドール歌舞伎町第二201号室
https://apa-music.org
info@apa-music.org